

フランス地域民主主義の現状

—2002年、2003年の市長インタビューから 2—

鈴木 礼 暁

⑫ディジョン (2002年9月11日16:30~18:00)

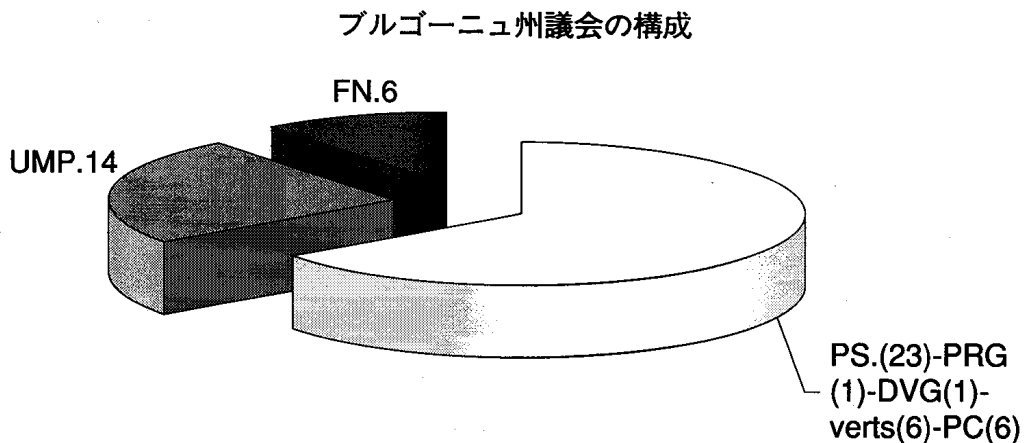
◎ディジョン小史

ディジョンはその起源を、前史以来地中海の邦々から仏英海峡 (la Manche) まで通じる道路に有しており、道路工事でセーヌ溪谷の方角のプレートを切り開いた後に残された平原に建てられた。ローマ帝国初期 (le haut Empire) に、ディジョンは、発見された遺跡によって判断されるように、まさしく重要な都市であった。中世初期 le haut Moyen Age には多くの軍隊が、カロリング朝時代の混乱した戦いの中で、ディジョンを争奪拠点とした。ディジョンの歴史にとって最重要事項の1つは、ラングル司教座の5世紀から9世紀にかけての400年以上にわたるディジョン駐在である。ブルゴーニュ公爵領の領主になったロベール敬虔王が次男のロベールに譲り、ディジョンは新しい公爵王領地の中心都市となった。公爵の居城の所在地として、大ヴァロア公爵の統治の下で大きな文化的輝きを放った。シャルル豪胆王の死に際して、ディジョンは宮廷に属し、ブルゴーニュの高等法院が移された。1513年にディジョンの住民は、ブルゴーニュの侵略に来た3万人のスイス人、ドイツ人、フランシュコンテ人に対して拠点を守った。宗教戦争の下でカトリック側に立ち、シャルニー伯爵のフィリップ・ドゥ・シャボのおかげで一定の平穏を得た。18世紀にディジョンは新しい繁栄の時代を迎え、1731年に司教座に昇格した。1870年10月30日、英雄的なレジ

スタンスにもかかわらず、ドイツ軍がディジョンに侵略した。ディジョンは、ブルゴーニュ公爵、フィリップ善良王、シャルル豪胆王、聖ジャンヌ(シャンタル)、ボシュエ、物理学者マリオット、彫刻家デュボア、リュドゥ、音楽家ラルノー、詩人クレビヨン、ブロス大統領、技師エッフェルなどを生んでいる。ディジョンはまた、1956年に、旧東欧世界の都市とではフランスで3番目、スターリングラードとは最初に姉妹提携している。 <http://www.quid.fr/communes.html?mode=detail&id=6530&req=d>

・ブルゴーニュ州議会

57人の州議会議員は1986年以来、もっとも強い平均を割り出して県毎のリストに対する比例代表名簿式の直接普通選挙で選ばれている。候補者リストは政党混合式ではなく、優先得票制をとらず、2回投票制で行われる。議員任期は6年で、21歳以上のものが立候補できる。また、リストの中では厳格なパリティ制が求められる。直近の選挙は2003年4月9日改正法の下で2004年3月21日と28日に行われた。ブルゴーニュ州議会の選挙結果(党派別議席配分)はグラフに示すとおりである。コートドール県選出州議会議員の数(18人)がソーヌ・エ・ロアール県の選出議員の数(20人)より少ないのは、選挙区割りの関係である。ソーヌ・エ・ロアール県選出議員構成は、社会党9(女4)、UMP 5(女2)、共産、緑、FNが各2(女各1)で、男性55%、女性45%である。女性の州平均は45.6%、



全国平均は 47.6%である。

<http://www.cr-bourgogne.fr/conseil/acteurs/elus.asp.html>

<http://www.election-politique.com/regionales.php>

http://www.observatoire-parite.gouv.fr/dossier/mode_srutin/regional.html#tab4

・コート・ドール県議会

ブルゴーニュ州は、コート・ドール県、ニエーヴル県、ソーヌ・エ・ロアール県とヨンヌ県の 4 県を含んでいるが、コート・ドール県には州都のディジョンが含まれている。もっとも人口が多いのはコート・ドール県で 43 カントンがあり、それぞれから 1 人ずつ 43 人の県議会議員が選ばれる。県議会議員は 6 年の任期で、普通選挙単記多数制の 2 回投票制により選ばれる。彼らは、まずは住民へのサービスのために議会の機能を実現する女性もしくは男性である。1 カントンの人口は、1,073 人の Grancey-le-Chateau から 37,847 人のディジョン 2 区まで様々である。各選挙後に、県議会は議長を選ぶ。議長は彼の主宰する公開の議会を、県議会場で年に約 6 回召集する。議長は、議案を出し、各審議にあたり投票にかけ、県議会議員によって採択された決定を執行する。彼はまた県業務の首長でもある。

<http://www.conseil-general.com>

◎フランソワ・レザマン市長 François Rebsamen

レザマン市長は、1951 年生まれで、結婚し 1 人の子を持つ。県庁の副長官、内務大臣ジョックスの秘書長 (1984-1986、1988-1991)、ファビウス首相の副秘書長 (1992-1993) などを勤め、1998 年以来ディジョンの 5 区選出の県議会議員 (ディジョンは 8 区からなる) で、県議会議長でもある。市長になった後、ディジョン圏都市共同体の議長、コート・ドール圏市長会会長を勤め、社会党全国書記、全国本部員でもある。

インタビューには、秘書長のティエリー・クールサン氏が加わり、市長は所要のため終了 10 分ほど前に退室した。

◎回答概要 (各コミュンでの回答概要では、質問テーマ、質問項目を省いたり、まとめて記述したりしているものもある。)

A-選挙

①レザマン氏は、ミッテラン元大統領にディジョンで市長選挙に出るよう勧められ、1983年の時32歳で立候補し27%、89年に35%、そして95年には45%の票を得て敗れた。この経過の中で、ミッテランは“負けても勝つ望みは捨てるな”と言って、レザマン氏を励まし続けたということである。レザマン氏の全国レベルの経歴と4度目の挑戦が彼を当選させたのであろう。投票状況についての情報は無かったが、<http://2001.scrutins.net/dna/newsM2001/>によれば、レザマン氏が第2回投票で52%を獲得したという。対立候補と目された、前市長(ロベール・プジャード、RPR)は立候補に躊躇し、2001年になって断念したというが、理由は聞けなかった。1928年生まれ(選挙時73歳)で、1971年以来、国民議会および内閣で要職を勤め、ディジョン市長でもあったことからの引退であろうか。結果RPRのバザン氏が後を継ぎ、47%の得票であった。なお選挙前には、レザマン氏の躍進にもかかわらず右派が有利という予想であった。

http://www.ipsos.fr/municipales2001/Dijon/dijon_tab.htm

60年ぶりの左翼の勝利はレザマン氏にとってだけでなく、社会党本部にとっても大きな意味を有する出来事であったであろう。

<http://www.lefourneau.com/historique/2001/election/dijon.htm>

レザマン氏はディジョン住民の期待に応えて、キャンペーンスローガンを“目覚めるディジョン”としたという。前市長側は、“古くからの石—(遺産と現状を保守するという意味であろう)”や、“私を今生きさせて—(支援・力を鼓舞しての意味であろう)”をスローガンとしていたということである。レザマン氏の課題は、左翼と無所属の個人を結集することであり、様々な市民団体とつながりを持つ事だったということである。なお前市長ロベール・プジャード(1928-)はブルゴーニュ州の南にあるオーヴェルニュ州の北部アリ

エ県の県都の生まれで、南西部(ミディピレネ州 LOT 県)出身の愛国極右プジャード派の創設者ピエール・プジャード(1920-2003)とは無関係のようである。<http://dijoon.free.fr/maire2.htm> 当選後市長は、新しい総務部長と複数の副部長を捜し求めたという。

②レザマン氏は“すべてのディジョン住民の市長である”事を願っており、800人の住民と市行政プログラムを作成したということである。選挙キャンペーンの間、レザマン氏は、住民との話しあいを通じて考慮した諸事業を訴えたと言う。

C-地方財政

①ディジョンは1人当たり1万フランの借り入れをしているが、これは国の平均である5,800フランの約2倍で、節約を旨とする行政に取り組まなければならないということである。ディジョンでは、50年の間に2人の市長しかおらず、一定の伝統主義を示しているが、レザマン氏はこれが動脈硬化を起こしていると指摘する。

②レザマン氏の陣営は、選挙の6ヶ月前に、市民に対する一種の契約事項をくみ上げたという。その理由としてレザマン氏が挙げたのは、次の2点を達成しようとしたからということである。すなわち、①市民と企業との最良の関係を構築すること、②県および州によって指導される要請にもとづくと同様、行政活動が指導する義務の観念にもとづいて運営されることである。彼らは、市財政の監査に取り組んだということだが、これが選挙前のことか当選後のことかは不明である。彼らはまた、4つの都市圏共同体契約に関して構想され、DATAR (Délégation à l'Aménagement du Territoire et à l'Action Régionale) により実施された比較研究にもとづいて彼らの考察を行ったということである。なお、DATARは県に1つずつあり、その事務所は県庁にあるということである。レザマン氏らは、財政上の合理化の必要性を感じており、当該組織間の連携スタイルを構築もしくは修正する意志を持っているということであるが、具体的には見えにくいことである。レザマン氏は、ディジョンがヨーロッパの東側圏との交流中心センターであると考えていると

のことである。ストラスブールおよびリヨンとをつなぐ TGV が、ディジョンの発展につながるという構想である。レザマン氏は“ディジョンがその富を集め、他にも与えるべきだ”と言うが、これは、ディジョンの潜在的可能性を彼なりに展望してのことであろう。

D－近隣民主主義

①レザマン氏は、10月に地区議会の設置を予定しているという。彼はこの法律が“市民の期待に答えるものである”と言う。彼らは、市民に地区議会の設置について情報提供し、登録者の間で参加者を特定するために抽選を行う予定であるという。彼らは、諸欲求を表明させるための規定を望んでいるということである。彼らはまた、地区議会の運営に当たり、当面、住民と議員との共同主宰を考えているということである。

②レザマン氏らは、経常経費とわずかな投資経費を予定していると言う。歴史は、ディジョン住民の反応や、現実的思考の中に痕跡を残しているという。1860年に、戦乱の後で、レジオン・ドヌール勲章がその行動に関してディジョンに与えられた歴史があるということだが、内容は不明である。また、彼は“同様の命運（恩恵）に指定されたのはフランスで65コミューンしかなかった”と言うが不明である。いずれにせよレザマン氏らは、“選良は、市民に血を与えなければならない”と言う。選良は躍動的でなければならないということであろう。

E－組合と都市圏共同体

①県には104コミューンがあり、農村地区のコミューンのための共同体があるということである。問題となっているのは、農村地区コミューンと都市的地域の均衡が出来るような、県および州の協調の下での le S.Co.T. (Schéma de Cohérence Territoriale) を構築することであるが、以前は、県は沈黙していたということである。人口15万人のディジョンの都市圏共同体は16のコミューンを含み25万人規模の都市圏共同体を形成しているということである。

②都市圏共同体は財政戦略を建てなおしているが、これは、“ディ

ジョンにとって第2の息吹である”という。(第2の息吹という言葉がここで意味するのは、初めでは息も出来ず、エネルギーも持ち得ないが、第2の息吹があったなら、その息を掴み、活気づくということであろう。) レザマン氏たちは、権限の移譲に関して “aux balbutiements”にあるようである。(“balbutiement”は balbutier の名詞形で、躊躇した話し振り、表現方法を良く知らない子供の話し方、ここでは物事が始まったばかりで、権限の分有に関して、それらの機能も含めて不確定な要素が多いことを示している。)レザマン氏は前記のごとく、ディジョン都市圏共同体の議長を努めているが、都市圏共同体についての権限や責任への公務員の対応は難しい状況と判断しているということである。

③レザマン氏は、この質問に関して、それが負担を生み出しており、特に政策決定に時間を要することが問題だと言う。コミューンと都市圏共同体との間の運営の複雑さがあるというが、内容は不明である。また、市民にとっては透明性が欠けているというが、これはどの決定が(市長もしくは共同体の)どちらの機関からなされているのかについて不明であるということである。レザマン氏はまた、都市圏共同体の責任者が市民により直接選ばれるのではなく、コミューン議員たちが責任者を選び、彼らの内部でポストを特定しあっていることについて強調していた。これらを住民による選挙職にすべきだとは明言していなかったが、国のシステムであることから問題提起にとどまったのであろうか。仮にディジョンでは別方法が取れるのであれば、レザマン氏の任期中何らかの改革の機運が出るのかどうか注目すべき事項である。例えばこれは、次期選挙に向けての目玉の1つになるのではないか。

④ディジョンが属するコート・ドール県には、3つの le S.Co.T.があるが、多くの財政負担を負っているという。国は県から、社会的任務をはずしたというが、これが社会保障に関わるどのような具体的役割であるかは不明である。レザマン氏は、いずれ県はなくなるのではないかとしているが、それが氏自身の願望なのか、国(州、

県、コミュン) の方向性なのかは不明である。

F－民主主義

①レザマン氏は議員の役割は複雑で、市長が“民主主義の最初の保証者”であると言う。市長はそのコミュンに対して規範となる役割を負い、生活の平穏が保てるように終始注意を払わねばならない。

②公務員は、学校、余暇活動などの中で、文化・スポーツ団体が行い得ると同様に参与し得るように活動しているというが、これが市役所の正規職員の活動であるのか、何らかの非正規職員のことを意味しているのかは不明である。

③彼らは、コミュン遺産の今後の展望について輪郭を作るためにアンケートを行いたいとしているようである。レザマン氏は市民たちが一般的に無気力な面を持っているが、投票については賢明であると評価している。

④レザマン氏は、市民の間に苛立ちがあり、議員たちより以上に反応していると言う。国民戦線は組織化し、メディアを活用しながら政治制度を理解することの出来る本当の力を有していると警戒している。レザマン氏は、民主主義は清潔さの実践だと言うが、誠実性と透明性に向かうべきだということであろう。現在の棄権の状況について、国が市民に語りかけていないことが原因であるというが、国がますます複雑な機構になり、立法の分かりにくさや組織・機関の錯綜と議員たちの説明不足により市民が政治から遠ざかっているということであろう。

G－国際協力

①越谷市と姉妹都市提携しているが、越谷市およびディジョン市のホームページにも紹介が無く、わずかに(社)越谷青年会議所のホームページ上で、1人が訪問時のひと言を載せているだけである。
<http://www.koshigaya.net/~jc2002/index>. レザマン氏は、“アジェンダ 21”にもとづく諸都市の連携を取り上げていたが、ディジョンと発展に望んでいる近隣コミュンの公的、私的なすべてのアクターを含む文書情報の中では国際連携に関する部門は僅かである。レザ

マン氏は、国際交流が、持続的発展、人道的な観点からなされなければならないと言う。これは、人間主義にもとづいてなされる分権的協同という発想であろう。

⑬ エックス・アン・プロヴァンス

(2002年9月12日14:30~16:00)

◎ エックス・アン・プロヴァンス小史

エックス・アン・プロヴァンス (以下ではエックスと略記する。) はプロヴァンス-コートダジュール州ブーシュ・デュ・ローヌ県の中心都市 (州ではマルセーユ約80万人、ニース約35万人、トゥーロン約17万人に次ぎ4番目、県ではマルセーユに次ぎ2番目) で、海拔175メートルに18,608ヘクタールの面積を有し、人口は137,067人である。

エックスは紀元前122年に、アクアエ・セクスティアエ *Aquae Sextiae* の名の下に、セクスティウス・カルヴィニウス *Sextius Calvinus* 総督により現在遺跡となっている地に建設された。カルヴィニウスはそれに先立ち、プロヴァンスを占領していたサリエンスの主邑で3km北にあったアントゥルモンの要塞を破壊した。紀元前102年にマリウスがプーリエール平野でチュートン人を打ち負かした後、町を整備し主要なモニュメントを贈った。カエサルは前45年にエックスを植民地とし、その後3世紀末、エックスはナルボンの首都となった。司教座が早くから存在していたが、8世紀になって初めて建設された。蛮族やサラセン族の介入や侵攻を受けた数世紀の後、エックスの優位性はアルルの優勢の下で減退した。11世紀から14世紀にかけて、100年戦争の被害にもかかわらず、エックスは繁栄を取り戻したが、14世紀末から15世紀末にかけて、アンジュー・プロヴァンス同盟と伯爵たちの統治の下で衰退した。有名なアンジュー伯ルネ王とその甥シャルル3世はルイ11世に伯領を遺贈し、結果1481年に王国に統合された。16世紀前半、地域は神聖ローマ帝国による3度の被害を受け、1563年にはシャルルカンによ

り破壊された。フロンドの伝統から、エックスは、血の惨劇を引き起こした宗教改革を経た後、リシュリュー、マザランに対抗し、モープーの議会の避難所 l'Exil des Parlements de Maupeou を立ち上げた。革命期には県の主邑となり、1799 年に副総督府となったが、19 世紀に衰退し、マルセーユの成長により対抗すべくもなく地位を奪われた。芸術と歴史の街エックスは現在大学街、その威厳とユマニスムの伝統を保持している。吟遊詩人と教養にあふれた君主たちの揺り籠、1409 年に設立された著名な大学、有名なプロヴァンス議会と三部会の開かれた 1501 年の建物、法服貴族たちの大小の砦、都市と美しい田園の見事な調和はエックスを芸術と観光の国際的な主要地に行している。

<http://www.quid.fr/communes.html?mode=detail&id=27757&req=Aix&style=fiche>

・発展する都市

エックスは北ヨーロッパと南ヨーロッパ、スペインとイタリアの間のローヌ川上の交差点都市の利点を享受しており、道路、自動車道、鉄道 (TGV でパリから 2 時間 50 分、リヨンから 1 時間 10 分) の基盤と国際空港に近接するという恩恵を受けている。エックスはここ数年の間に、多くの移住の結果として、驚異的な人口の増加を得ている。今日エックスは、フランスのコミュンで 6 番目の広さをなす 18,600 ヘクタールの土地に 137,000 人の住民を抱えている。エックスの人口は継続的増加にあり、市中心部でヨーロッパ最大の都市計画 le projet Sextius-Mirabeau を進めさせている。

これらすべての切り札は、研究と大学の拠点および新技術の応用により活力を受け、職人的、商人的、産業的ならびに商業的ゾーンの発展をもって、前例の無い経済的躍進を促進している。水資源分野とマイクロエレクトロニクス分野でトップランクの能力を備えて、エックスは、農業、健康、環境学の分野でも有力な地位をしめしている。

34 のコミュンからなる都市圏共同体の灯台となるコミュンとし

て、エックスは、幾世紀を経て、世界に知らしめてきた生活の優しさを保持するために調和と均衡を求めようとする絶えざる配慮をもって、すべての中心都市が直面している諸問題（急速な拡大、交通、住居、公害など）を、解決することに意欲的に取り組んでいる。エックスには能舞台があり、2年に1度の公演がなされている。

http://www.mairie-aixenprovence.fr/v2/article.php3?id_article=887

http://www.mairie-aixenprovence.fr/v2/article.php3?id_article=849

エックスが属するコート・デュ・ローヌ県は、1790年に創設され、当初は、エックスが主邑であったが現在はマルセーユにその地位を譲っている。4つのアロンディスマン、47のカントン、119のコミューンからなり、全体で約176万の人口である。

・ブーシュ・デュ・ローヌ県議会

57人の議員がいるが、現在の党派別構成は、PC. 9、PS. 27、DVG. 1、PRG. 1、DVD. 2、UDF. 1、UMP. 16である。

・プロヴァンス・アルプ・コートダジュール州

州のデータ：人口：4,506,253人、フランス総人口の7.5%、面積：31,399 km²。

県構成：6県-les Alpes-de-Haute-Provence (04), les Hautes-Alpes (05), les Alpes Maritimes (06), les Bouches-du-Rhône (13), le Var (83), le Vaucluse (84)。

コミューン：963、そのうち34コミューンが2万人以上の人口を持ち、州の人口の58.3%を構成し、5つの都市部（マルセーユ、エックス、ニース、トゥーロン、カンヌ／グラス／アンティブ）があり、61.8%の人口を擁している。フランス全体で人口20万人以上の都市圏は29であるが、そのうち4つがこの州に属している。プロヴァンス・アルプ・コートダジュールはフランスの中で最も都市化の進んだ州のひとつである。

・州議会

議長

社会党のミシェル・ヴォーゼル氏が 1998 年に州議会議長に選ばれ、2004 年に再選されている。同氏は 1981 年から 1986 年まで共和国大統領のポルト・パロール、92 年から 93 年まで法務大臣を務め、他にアルルの市長、国民議会議員の経歴もある。州議会議長は議会の審議を準備し、執行し、州の予算案を作成し評決させるが、州業務の首長であり、州の財産を管理し、法的に州を代表する。

副議長

州議会には 15 人の副議長がおり、経済、文化、産業、山岳、エコロジー、行政など各部門の責任を割り当てられ、各地域を考慮して選ばれ、国民議会議員、市長、市議会議員などを兼務している者が 12 人で、社会党が中心となっている。

議員 (党派別構成)

議員定数は 123 人で、社会党、共産党、緑などが 73 人、UMP、UDF などが 31 人、国民戦線が 19 人である。

◎マリス・ジョアサン・マッシニ市長 Maryse Joissains Masini

マッシニ市長は、トゥーロンに生まれ 58 歳で、1970 年以来エックス控訴院所管の弁護士で、2 児の母でもある。エックス大学で法学を修め、学長から賞状を得た。犯罪学と私法に関して博士課程の職業専門教育を指導した。1980 年から 83 年までエックス市の社会援助施設の所長。1983 年から 89 年までエックス市議会助役。2001 年に市長に当選。1983 年から 89 年まで州議会議員 (UDF-RPR リスト)。1996 年まで UDF-Radical の全国、州、県の責任者。2001 年 4 月からエックス都市圏共同体の議長。2002 年 6 月から国民議会議員。2002 年 11 月から高等法院予備判事である。1985 年以来、SIDA と政府の無責任に対する活動に取り組む。レジオン・ドヌール 5 等受勲。

面談に応じたのは、地域民主主義担当助役のフォンガラン氏と市長室参与のガンタ氏である。

◎回答概要

A－選挙

①エックスでは社会党が12年間市行政を担当してきた。第1回選挙には7リストがあったが、右派の16%、14%、14%を得た3リストが合流した。その際市民団体からの人物の参加もあった。マッシニ新市長の夫は79年から83年までエックスの市長であったと言うが、詳しくは不明である。前市長のピシュラル Picheral 氏は2期を勤め、現在も上院議員である。フォンガラン氏らは、選挙戦が、前市長の影響もあり、難しいものであったと告白していた。これ乗り越えることが出来たのは、現場での日常的な活動のおかげだということであった。その際、様々な集会などを通じ公式、非公式の宣伝を行ったであろうことが推測されるが、ここでは踏み込めない。

参考のため、市議会選挙の結果を挙げておこう。第2回投票ではマッシニ女史のリストが50%で42議席、ピシュラル氏側が49%で13議席であった。95年選挙の際は、右派リストの分立がピシュラル氏に味方し再選されたが、前期のように、UDF-RPR・DLがUDF・RADICALのマッシニ女史に連携したことが勝因であったであろう。<http://www.ipsos.fr/municipales2001/Aixenprovence/aixenprovence.htm>

②マッシニ市長は国民議会議員となり、この2つの任務が野党に

2001年選挙第1回投票

Les résultats du 1er tour	List	N.de voix	Résultats 2001(%)	Résultats 95(%)
Hubert Benoît	LCR	1,941	4.75	—
Ambroggiani Lucien	div.g	3,320	8.12	5.29
Picheral Jean-François	PS-g.p	13,551	33.15	41.32
De Peretti François-Xavier	UDF	5,680	13.89	23.41
Joissains-Massini Maryse	div.d	6,725	16.45	17.12
Chorro Jean	RPR-DL	5,679	13.89	—
Barillier Damien	MNR	3,986	9.75	FN:12.81

より問題とされているという。(これはピシュラル前市長の場合も同じであったろうが、立場が変わればであろう。)いずれにせよ、これにより、国家向けの書類手続きやプロジェクトの推進に当たって有利な事情があるということであった。彼女は、周囲の作業グループ(議員、市長室など)に囲まれ、恵まれているということであった。与党議員すべてに任務を与えていることがそれを可能にしているのかもしれない。

B-パリテ

①与党の 42 議席は男女半数ずつで、助役は 16 人中 12 人が男であるが、すべての与党議員が地区担当(男 5、女 4)を含む特任助役および、業務別の代理任務(男 4、女 12)を帯びているという。女性をリストに加える基準は資質・能力であったという。

http://www.mairie-aixenprovence.fr/v2/rubrique.php3?id_rubrique=50

③女性議員たちは、繊細さを表しているという。諸問題に対して男性よりも細かな感性で望み、質に同意するセンスを持っているという。

C-財政

①フォンガラン氏らは、社会党が大規模な発展主義的目的を持っていたので、遺産・伝統に資金を投じられた大事業が、財政を圧迫していると言う。経常費負担が 15 億フランの予算の 54%を占め、重いものだという。エックス市は借金財政であるが、危機的ではないという。不動産税および住居税は引き上げられた。エックスは重要な(財政)関係の要素として、2つの産業ゾーンと観光(産業)を有している。他方で、町には 6 万人の学生・生徒がいる。修復に必要な学校が 76 あり、主用道や田舎道が改修されなければならない。下水処理・清掃が経常経費の支出を増やすということであったが、費目はこれ(経常費)でよいのか不明である。フォンガラン氏らはまた住宅が不足しているとも言っていた。

②フォンガラン氏は、“乱脈財政を抑制”しなければならないと言

うが、具体的な対応策は示されなかった。

D-近隣民主主義

①制度設置済みで、市中心部に加えて9 “ヴィレッジ” があるという。ヴィレッジはここでは、市周辺部の地域を示すが、フォンガララン氏自身は、リュイヌヴィレッジの市長である。(この方式はリヨンやマルセーユのアロンディスマンの市長のあり方にやや似ていようが、それらが選挙により市長を選ぶ自治団体であるのに対して、エックス市長により任命されたヴィレッジ市長が限られた業務を担当するもので、自主財源も持たない点で異なる。)それでも、これらの地区、ヴィレッジの住民のアイデンティティは強く、リュイヌのヴィレッジではリュイノア(リュイヌ人)、ミルのヴィレッジの住人にはミロア(ミル人)等という意識があるという。同時にエックスのコミュンに属しているという強い意識があるということである。(パトリオティズム?) ヴィレッジは、代表となる自然人(?)により構成されており、3分の1は議員により選ばれ市長により認証され、3分の1は諸協会から参加し、3分の1は有識者から選ばれた後に抽選で選ばれるということである。

前市長の政策は周辺の地区やヴィレッジを犠牲にして、市中心部と、そこでの大事業に重点が置かれていたという。ヴィレッジではすぐに処理すべき案件として下水・清掃問題があるということである。

②地域議会の名称は、“地区問題委員会”が存在していたこともあり、“近隣議会”となった。先の委員会のメンバーは、現在その3分の1しか“近隣議会”の代表に残っていないため不満が出ているということである。

④地区の4%が参加しているという。エックスでは、地区の創設にあたって、多くの宣伝を行ったということである。

⑤マッシニ市長の与党は広範で多様な表現、すなわち意見による参加を提唱している。“しかし、行政が主導権を握る”(彼らの問題としているのは、おそらく2つの現象、一方は、クロジエにより指

摘された面と同一の言葉ではないがすでに観測されている法的・行政的交錯の複雑性と、他方では、以前社会党の市行政運営の下で働いて来て、受動的抵抗やサボタージュの形式で実現する、一部の公務員の意志に基づく行政権力の相対的な掌握であろう。)ということである。他方で、中心部から離れた3つのヴィレージは、前市長の時期にそうであったように、見捨てられていると感じているということである。

E-組合と都市圏共同体

①交通および廃品回収の組合がある。都市圏共同体は34 コミュンを含んでいる。エックスが43人の代表を出しているのに対して、ヴィトロール(37,087人、1997年以来、FNのメグレ婦人ールペンの娘が市長を勤める)は13人である。(フォンガラン氏らが、ヴィトロールに言及しているのは、それがフランス中に知られたメディアアテクの町で、FNの政権が出来た最初の町だからであろう。メグレ婦人は、彼の夫ブルノ・メグレの被選挙資格喪失のあとで、市長となった。現在、メグレ夫妻はルペンと袂をわかったとされているが、F2、オヴニ、その他の情報によればFN-MNR=メグレとFN=ルペンとの分裂は決定的であるという。) <http://www.ilyfunet.com/ovni/1999/430/onenpar.htm>、www.kcn.ne.jp/~mo-mo/deki98-10jp.htm

②エックス都市圏共同体は、ハイテク・情報の分野で雇用のプールがあり、国からの支援に与っていることもあり豊かである。

③1年の経験しかないので、運営上の問題の所在を明らかにするのは難しいということである。

④西部にあるベール湖の存在(湖それ自体ではなく、その湖岸にある大掛かりな精製所)と、エックスの真南のガルダヌにある熱工場に起因する大きな公害に苦しんでいるとのことである。特に後者による微粉塵の影響が大きいということである。

別の問題として交通があり、渋滞緩和のため、郊外の地下に駐車場を配備しなければならない。これは、町の中心部が歩行者優先と

いう美点を持つにしろ、それとも絡んで圧倒的に車にとっては不便であるという事情は、我々も実感したところである。総合的に考えるなら、郊外での駐車場配備だけでなく、それを降りたあと、例えば循環バスを設けるなどの工夫が必要であろう。

⑤エックスでは、強い増水の場合に、ダムや小河川に関わる危険があるというが、具体策は立てていないようである。ただ、市当局はこの点について、市民に注意するよう呼びかけているが、“市民は、国がすべて責任を負っている”と考えているとのことであった。この市民の反応は、暗に、市当局を含めすべての行政機関のことも指しているのではなかろうか。

彼らはまた、リストに載った地震層の中にあり、そのため、安全基準により、建築物の最良の保全のための幾つかの規定を設けている。これが、地震による危険の無い地域に比べて30%程度の建築費の上乗せを強いているという。

さらに、市を取り巻く森林の火災の危険もあるという。市当局の要請により、彼らは消防士の学校の設置を実現したということである。また森林火災だけでなく、地震、水害、海、山での危険、すなわちエックスを取り巻く自然災害全般に関する研究にも携わっているということである。

F－民主主義

①“全体として、登録者の約30%が棄権している現状であり、1人の議員は実際、30から35%を代表しているだけである”という。また、白紙は計算されていないということである。フォンガラン氏は、民主主義の発展のために公務員の資質向上を挙げたが、具体的には示されなかった。彼はまた、議員たちがますます多くの責任を自覚すべきだと言う。

③エックスはフランスの中で最も落書き *les tags* の多い街であるということだが、これは、フランスの南部では多くの人が公共ゾーンの清潔さの保持に無頓着であることが原因だとしている。この問題に対応するために、諸協会や学校の協力の下に、公共性のための

年間活動の組織を計画しているとのことである。

④極右について、フォンガラン氏は、“彼らは多くの本当の問題を明かしているが、効力の無い提案をしている”と言う。市議会選挙では、MNR (FN) のバリリエ・ダミアン氏は、“9.75%の得票にとどまり、第2回投票に望めず、トライアングルにはならなかった”ということである。なお、95年選挙では12.81%を得て、第2回投票に臨み議席を得ていた模様である。このことの指摘はしかし、フォンガラン氏等にとっては、3極の危険性を心配しなければならないことを表すものであろう。左派・右派の2極構造においてどちらかが多数派となるという状況が、第3グループの登場により解消することになるのだから、たとえ、彼らが前2者を圧倒するチャンスは無くても、従来の2極構造下での選挙への取り組みとまったく異なる対応をせざるを得ないのである。選挙のところで示した、7グループの得票状況によれば、多くのバリエーションを想定し得るであろう。

国民議会選挙については、エックスでFNが得た得票は、10.97%であった。もっとも、フォンガラン氏らは、FNが、フランス全土では2~3%を代表するに過ぎないとしている。2002年大統領選挙結果とは異なる見方である。

G-国際交流

①エックスは7~8の町と姉妹提携をしているというが、基本的には大学とオペラに関わる交流ということである。エックスには多くの外国人が訪れるということだが、第5助役で国民議会議員候補のブルノ・ジャンザナ氏がこの分野での運営に当たっているとのことである。仏日協会があり、町には、日本に対する関心があるということである。なお、ガンタ氏の兄弟が30年来、東京でフランス語を教えているとのことである。

⑭アジャクシオ (2002年9月13日 11:00~13:00)

◎アジャクシオ小史

・コルシカ

コルシカは、バスティアを県都とする上コルシカ県(2B)とアジャクシオを県都とする南コルシカ県(2A)からなり、2つの県で州となっている。人口では上コルシカが14万1,605人で、南コルシカの11万8,593人を上回るが、州都はアジャクシオである。南コルシカには2つのアロンディスマン、22のカントン、124のコミューンがある。

歴史

言語、性格、習俗の同一性にも関わらず、コルシカ人は非常に大きな多様性の起源を持つ(イベリア、リグレ、アフリカ)。キルノスという最初の名前で知られた島は、フォセニア人、エトルリア人、カルタゴ人によって当時議論され、ローマ人はコルシカを占領することによりすべての世界から同意を得た。ローマ帝国の衰亡は、不可避的にヴァンダル、ゴート、サラセンの侵入を招いた。イタリア人の支配は、11世紀のピサに始まり、14世紀の進出に続き、島の独立のため望みの無い戦いに挑んだ勇敢な愛国者パオリの存在にもかかわらず、1768年にルイ15世に売るまで、ジェノア人は大きな憎しみを買ひ、絶え間無い騒擾の原因となった。フランス人とともに、この非妥協的な住民は世界中で最も美しい島を占有しつつ、その騒乱の歴史にもよく順応した。最近の騒乱、それから生じる失策や喧騒は、コルシカが緊密に同一化しているフランスの領土の一体性を問題化し得るものではない。コルシカ住民にとって、時代錯誤的な分割の非現実性を判断するのが妥当であるが、同様に、“大陸本土にとっては、”島民の実情、島の欲求、願望、それにその固有性の保護を考慮することが妥当なのである。

地理

フランス本土海岸から160kmに位置するコルシカ島は、標高2,700mまで競りあがり基本的に花崗岩の地質で構成されている。

島は、対照的な海岸を構成する山脈により長いほうに沿って2つの地域に分かれている。豊かで肥沃な東側の平野部と切り込まれ断崖の多い西海岸である。河川は落差が激しく、かつて島全体を覆っていた森は、起伏にとんだ中腹で密集し香りを放つ小灌木からなるマキに土地を残した。人は、laricio 松とぶなと巨大な栗の木から成るすばらしい森を気に留めるが、これが山岳地域に Castagniccia の名を与えたのである。生活関連資源は特に牧畜、多角的農家、葡萄やオリーブ栽培者により生産され、東部の平野では現在、葡萄、オレンジ、その他の果樹の集約的栽培が取り組まれている。産業が存在しないにしても、観光は、その見事で対照的な数多くのスポット、建築上の遺産、すばらしい気候、住民の好意（訪問者が、自然への配慮とその尊重を示しているのを知るとき）を持って、コルシカの基本的な使命となっている。観光は大掛かりな基盤整備、自動車道、レジャー施設、特別なマリナーを必要とせず、その個性を保持しているのである。

芸術と経済活動

頑固な偏見が美しい女性からあらゆる知性を奪ってしまうように、人はしばしば、その芸術的遺産を考慮せずに、コルシカを自然の美しさのゆえに賞賛する。しかし芸術的遺産は、多様ではないにしろ、無視できないのである。急激な文明化は、何よりも、21世紀に、ヨーロッパに固有の祭司的・建築的証拠を残した。アレリアは、地中海に僅かしか残っていないので、ローマ世界のイメージを与える。ローマ以前の数多くの聖域の遺跡は、見事なカノニカを含む100以上が残存しているにも拘らず、あまり知られていないローマ時代のすばらしいコルシカを伝えている。続いてバロックが、殆ど全ての地区において、フレスコ画や、繊細で貴重な彫刻、豪華な大理石、金銀細工を含む、高い鐘楼と金箔の石もしくは花崗岩から成る魅惑的なファサードを残した。市民の建造物は、被害を帯び、ジェノアの塔、要塞城と防護用の美しい建造物（Bonifacio, Corte, Calvi）以外殆ど残していない。最後に、すべての村に、厳しい高いファサー

ド、石製の美しい器具、アーチ型天井、階段状に石の敷き詰められた道路、金色に塗られた窓の枠などが残っている。現在、コルシカ様式とその工芸アトリエを持つ、創造的で伝統的な重要な職人の再生が始まっている。Quid.fr

・アジャクシオ

伝記では、アジャクシオは、その名の起源となったアヤックスによれ創建された。最初の市街は高台に位置していたが、10世紀ごろの海賊により破壊された。おそらくジェノア人により現在の市街より幾分北に再建され、1492年に同じジェノア人に決定的に権限移譲された。これら5世紀を通じて、領主間の争いと同様侵略が原因となり、アジャクシオの支配者はしばしば変わった。ジェノア人、シナルカの諸領主、アラゴン王、ルカの家系(40人が虐殺された重要な家系)、サンジョルジュ銀行(ジェノア共和国の財政と財産管理の任にあった)がかわるがわる権力を握った。1553年にサン・ピエトロがテルメ將軍の代理として町を掌握した。テルメ將軍は城砦建造に取り組み、フランス軍の撤退後、1559年にジェノア人により完成された。1723年に、アジャクシオは、ジェノアが島を2つの行政域に分割したので、“山の向こう側”が行政の主邑となり、その首都としての最初の役割を担った。1764年に、コンピエーニュの条約によりフランスは幾つかの土地を占有し、これは、ジェノアとの合意により、1769年にアジャクシオのフランス国土への最終的併合を予告するものとなった。1793年に国民公会は、2つの県、ゴロとアジャクシオが主邑となるリアモーヌに分けた。1811年の総督府による1つの県への統合はアジャクシオを首都としたが、この選択には、ナポレオン・ボナパルトの故郷であることが影響したであろう。1975年に、コルシカは上コルシカと南コルシカの名の下に2つの県にあらためて分けられ、州庁がアジャクシオに置かれることとなった。ナポレオンの思い出にあふれ、活力があり躍動する町は、アジャクシオに“皇帝の町”の別名を与えている。ギスティアニ將軍、ロッシ家の3將軍、ナポレオンとボナパルト家の全家族、オルナノ、収容

所に送られ 1943 年に死んだレジスタンスのダニエル・カッサノ
ヴァ、ティノ・ロッシの故郷である。パイヨットと呼ばれる火事
(1998) は、ベルナール・ボネ県長官の逮捕 (取調べを受けたフラン
スで初めての長官) をもたらした。Quid.fr

・ コルシカの固有の地位

1982 年以来、コルシカは、多様な経過を経て進展した固有な地位
を与えられた。現在の地位は、2002 年 1 月 22 日法により補正された
1991 年 5 月 13 日法にもとづいており、投資に関わる特別措置を講
ずることを定めている。

Loi n° 2002-92 du 22 janvier 2002 relative à la Corse:

TITRE III: MESURES FISCALES ET SOCIALES

Chapitre Ier: Mesures fiscales et sociales en faveur de l'investis-
sment

[http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/UnTexteDeJorf?
numjo=INTX0000188L](http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/UnTexteDeJorf?numjo=INTX0000188L)

ジャン・ピエール・ラファラン首相は 2002 年 7 月 27 日、サルコ
ジ内務・国内安全・地方自治担当大臣がコルシカの議員たちと行う
対話を支援するためコルシカに訪れている。この訪問は、コルシカ
での対話と、2002 年 7 月 3 日の首相の一般政策宣言にある“近隣民
主主義の共和国”の“支柱”として定義づけられ、事前に首相が“国
と州との関係の改善措置について”再考するために示した“住民参
加、プラグマティズム、実験”という精神によって描かれる分権改
革に新しい展開を加えるための政府の取り組みを示すものである。
首相はまた、2002 年 1 月 22 日法の適用が“法的、包括的に実施され
る”ことを確認し、PEI (LE PROGRAMME EXCEPTIONNEL
D'INVESTISSEMENT) のための柔軟で、充実した手段を保障し
た。

サルコジ内務・国内安全・地方自治担当大臣が同行した 2003 年 4
月 7 日月曜日のコルシカ来訪時に、ジャン・ピエール・ラファラン
首相はアジャクシオの県庁で表明した演説で、島の制度上の組織改

革に関わる(憲法の72条1項の最後の段落の内部での)意見の保持を表明したが、それはコルシカを“我々の制度のパイオニア”とすることを狙い、その精神を確定したのである。

5月30日に、サルコジ大臣はコルテ大学を訪れ、その発言の中で、“サンレモの基準”の諸分野の中で一定数の措置、“職業教育”と呼ばれる教育、大学建設と研究推進措置を表明した。

http://www.corse.pref.gouv.fr/scripts/display.asp?P=COhist_intro

<http://www1.odn.ne.jp/cah02840/CORSICA/>

・コルシカ人の気質

ここでは、レヌッシ市長と協力者のファブロー氏と筆者の議論にもとづき、コルシカ人の気質について推定してみよう。コルシカは絶えず外国の支配に服し、コルシカ住民の願いが聞き取られることは無かった。このことが、コルシカ人が今日も、パオリ父子が企てた事業を継続しようと、独立の意志を表明していることを説明するであろう。彼らは誇り高く、敗北を喫しても、屈辱は認めない。住民たちは公式の法が制定される以前から、優れた慣習を持ち続けていた。独立心の表明は、コルシカ住民の歴史に根ざした心理的欲求を持っているが、レヌッシ市長が言うように、全面的な独立の欲求は人口の僅かな部分に見られるもので、現実性のないことのようなのである。

コルシカ人の大多数が、ドミニク・パオリが行ったことの延長線上で、彼らの島の運営が彼らに戻ることになるだろうと見ているであろう。この立場を取るにあたっての別の郷愁的要素は、非常に長期にわたり島に責任を持つポストが、大陸に起源を持つ幹部により担われていたことである。ナポレオンが(1768年のヴェルサイユ条約の1年後)コルシカに生まれたという事実はコルシカ人のアイデンティティの強さと、ナポレオンが島の命運を握るという野望に貢献したのかもしれない。

一般的な意味で、そのアイデンティティ基盤への閉じこもりの欲

求に対応する島国の住民の特長について、パオリやナポレオンの強い個性や行動力に現れたようなものと結びつけて語ることが出来るであろうか。彼らのプライドは、おそらくブルゴーニュ人のそれと比べられるであろうが、同様の仕方では現れていない。ブルゴーニュ人はプライドが高いが、大陸の中で他の地域に囲まれながら、それを保持したのである。彼らには従って、島の住民の持つ閉じこもりの欲求は無い。また、侵略された歴史はむしろ無かった。このことは、コルシカ人の要請の厳しさを示し、その願望の強さを示すものかも知れない。

コルシカには産業活動は実質的に存在しない。レヌッシ氏によれば、従業員が 100 人そこそこの企業が島で最大唯一だということである。経済活動は個人業種的な活動で、また産業上の投資対象にはなっていないということである。島にある唯一のコルテ大学が、様々な情報提供を期待されているが、卒業生は島で職を見出せず、留まらないということである。労働に関するコルシカ人についての報告は、怠惰な人々と見られていることからしばしば冗談の対象となるくらいであるが、彼らの性格スタイルの事実についての誤解によるものであろう。コルシカ人は、一方で特に大きなエネルギー消費を用いなくてすむ気象条件にあり、他方で大規模な消費の欲求を抱いていないのであろう。

ほかに協力者の情報では、数年前にスキャンダルが起こったが、それは農業銀行がマフィアもしくはその筋の組織に、利益を度外視して投資したものだということである。このようなことは合法的でより一般的な投資意欲を殺ぎ取るものであろう。

大臣級の政治家たちが多年にわたり、県庁での暗殺やマフィア的精神を捉えて、コルシカを“秩序ある状態”に立て直そうと引き続き語っている。しかし、法秩序の再構築（警察力の強化）は、第一の最良の方法だとは言えないであろう。

◎シモン・レヌッシ市長 Simon Renucci

レヌッシ市長は 1945 年南コルシカのコザノで生まれ、小児科医で

ある。政治生活上は、1998年3月から2002年7月までコルシカ州議会議員、1998年3月から2001年4月まで南コルシカ県議会議員、2000年9月から2001年3月までアジャクシオ市議会議員(野党)であった。2002年6月に国民議会議員(Ajaccio I, Ajaccio II, Ajaccio III, Ajaccio IV, Ajaccio V, Ajaccio VII, Celavo-Mezzana, Cruzini-Cinarca, Les Deux-Sevi, Les Deux-Sorruの諸カントン選挙区選出)となり、疾病保険に関する法改革の検討を任務とする特別委員会のメンバーとして活躍している。2001年3月にアジャクシオの市長となった。レヌッシ氏は社会党の支援を受けている。

レヌッシ氏が多忙であったため前記の一般的議論をただけで、第1助役のシャルル・ナポレオン氏が面接に応じてくれた。2001年のアジャクシオでの選挙では、前市長で、ボナパルト派のマルク・マルカンジェリ氏に対して、レヌッシ氏側が勝利したが、第2回投票でレヌッシ氏のリストにナポレオン氏のリストが合流した。ナポレオン氏の経歴や、政治立場の特異性から彼の紹介をしておこう。

・シャルル・ナポレオン第1助役

ナポレオン氏は、1950年にパリ近郊で生まれ、ナポレオン・ボナパルトの末の弟であるジェローム・ボナパルトから5代目の直系で、生存する一族の家長である。ナポレオン氏はEHESSなどで学び、ソルボンヌで経済学博士号を取り、公務員や銀行員として働いた後、1996年から不動産会社の経営に携わっている。社会活動として、アジャクシオで「コルシカのイメージ保護と推進協会」を創設し会長を務めるなど、地元での活躍の場を広めている。政治活動に関しては、1994年の欧州議会選挙ではコルシカの自治派を応援し、また2001年選挙でのリスト作成に当たっては、自ら筆頭となり、「皇帝の町の現代化」や、「文化的観光のベクトルであるコルシカのイメージの価値化」を選挙目標に掲げ、既成の政党には属さず、「共和主義者であり民主主義者」として、新規の「アジャクシオのための意志」グループを結成し立候補した。www.ifrance.com/cscorse/all_qui.htm

◎回答概要

A－選挙

①レヌッシ氏はロカール派の立場を取っており、民主社会派であるとのことである。ナポレオン氏によれば、“ボナパルト派は 2 世紀の間コルシカの政治世界に登場してきたが、この 30 年ほど利権主義的になり、前市長のマルカンジェリ氏は出世主義者である”ということである。これは一般的に起こり得る現象であろうが、コルシカにおいて表現される場合に、例えば、特定の部族の利権を追及するような一種のマフィア的な利権追及をも含むものであるのかは不明である。イタリア南部や近くのシシリー島での政治風土に何らかの顧客主義－利権主義－出世主義があるのか、また、アジャクシオでの利権主義に関わりがあるのかについてもここでは踏み込めない。

ナポレオン氏の説明を続けよう。2000 年に市議会の一部の辞任を受けての選挙があり、ジョゼ・ロッシ氏とレヌッシ氏が一線を画し、結果としてマルカンジェリ氏側が勝利したということである。

2001 年選挙では、第 2 回投票で PC、PS、MC ((Mouvement des Citoyens de Chevènement) にナポレオン革新グループ (ナポレオン氏) が結集したとのことである。その際のグループの困難は、“固定観念をもった人々を説得” することであったが、そのために “アジャクシオの発展とその解放” を強調したという。レヌッシ氏は選挙キャンペーンを “コルシカの近代化を軸に” 展開したということである。

②ナポレオン氏によれば、レヌッシ氏が 2002 年に国民議会議員に当選したことにより、レヌッシ氏自身の地域への対応が難しくなっているとのことである。

B－パリテ

①特別な問題はなかったが 11 人の助役中女性は 2 人だけということである (現在は 14 人中 4 人)。

②能力ある女性を探すのは難しいというナポレオン氏の一般的な観察が示された。

C-財政

①公務員が多いことから(1,500人)、人件費に予算の58%が割かれ、大きな財政上の問題があるという。自主財政になりえず財政きりつめを検討中だということである。

②7月に始めた間共同体事業が補助金の支援を受けているということである。

D-コルシカ法

①コルシカ法の根幹は国の立法諸権力(内容)の一部をコルシカに移譲することである。2000年7月にコルシカ議会の設置が採択され、2002年の1月22日法で基本事項が確定され、2004年までに2段階で進められるということである。2000年に経済、港湾管理、特に言語の使用を中心とする文化的自立に関する最初の実質的な権限移譲がなされ、2002年にそれが法制化され、2004年には立法的権限移譲が予定されているとのことであるが、コルシカ法全体の経緯とその意義については別途考察すべきテーマである。

②コルシカ法は地域、島の独自性の承認である。コルシカ人の60%はこれに賛成であるが、制定された諸規定を風刺するのではなく、十分に説明する必要があるとナポレオン氏は言う。無気力と暴力の間の道、自治に向かう道が探られなければならないということである。

E-近隣民主主義

①アジャクシオの人口は8万人以下(54,699人)のため、近隣民主主義法の対象外である。地区役場、暴力監視委員会がある。それらは、市役所と連携して、監視委員会から出される諸提案を具体化するためのパイロット委員会を設け、地区の諸協会を設けることにあたっている。諸計画を提示する委員会と並んで10歳から12歳の子供の“行進”があるというが今ひとつ内容がつかめなかった。ナポレオン氏は、自由を回復するために社会関係(秩序)を再建し、社会意識を再興し、諸欲求を満たし、諸要素を寄せ集めるのではなく、新しい諸条件を創設しなければならないという。(この説明は具

体性に欠けるが、後半に関して推測してみよう。ナポレオン氏は、一方で、“ゲシュタルト理論”に立って「総体」という観念を表現しているのではないか。総体もしくは統合体を加算的なものとして考えるのではなく、統合的総体が別の事物を生み出し、したがって、総体の質の転換に至るということであろう。他方で、彼は多数のものが関与し得る発展の軸足を作るようにするために、諸個人あるいは小さなグループを繋ぎとめることを望んでいるのであろう。これは、欠乏の感覚に対応するものであろう。住民は集合的な将来の中にあり、これはもろもろのエネルギーを動員することを底意として含んでいる。心理的にそれには2つの道があるというのが一般的であろう。対抗的に連帯するか、賛成的に連帯するかであろう。フランス国家に対抗しての住民の連帯があろうし、肯定的な目的のために連帯することもあろう。どのような形態であれ独立だけが、対抗的連帯主義の結果となろうが、結果として満足を齎さないであろう。経済的發展をめぐって連帯することも、将来であるにせよその解消の時期に至るであろう。ナポレオン氏はこのような展望から、諸協会のフォーラムという視点に立ち様々に言い表したのであろうか。ほかの対話者が“うまく統治する”という視点が多かったのに対し、ナポレオン氏は哲学的な発想から社会・政治を見ているように思われた。ほかに、ナポレオン氏は通路の欠如や管理すべき指導体制の欠如についても触れていたが、詳細は展開されなかった。

F-組合と都市圏共同体

①レジャー用の港の管理が、組合に移管されているとのことである。都市圏共同体 (C.A.P.A.: Communauté d'Agglomération du Pays d'Ajaccio) があり、10のコミュンが参加しているとのことである。発展的には、公務員の均衡配置をしなければならないとのことであるが、具体的には不明である。

③C.A.P.A. は1月から始まったばかりで、困難な点を指摘するのは難しいということである。問題として、小さなコムンが吸収されてしまうことへの恐れを持つことから、役職の指名制が問題であ

るという。

④大きな投資が予定されるが、特に新しい水処理工場のための投資を準備しなければならない。

⑤交通に関する問題を抱えているが、外側のバイパスが必要である。その実現は、これに関するコルシカでの大きな遅れを取り返すために当てられた特別投資計画に盛られているということである。

G－民主主義

①ナポレオン氏によれば、議員の役割は、“マティニヨンの合意(2000 samedi 15 juillet 2000)”の中で、問題となっているというが、ここでは踏み込めない。“法の現状”は、コルシカで間違っ**て**扱われており、“法の現状”を再建しなければならない**と**、同時に分権を実現しなければならない**という**のである。議員たちは、地域経済の発展に取り組まなければならない**という**ことである。

②ナポレオン氏は、公務員が島の現状に関して多くの責任を負っている**という**が、地方公務員だけでなく、公務員一般について問題にしている**よう**である。という**のも**、ナポレオン氏は、事物を処理している家系に属する大きな政治家を問題としている**から**である。彼は、“クラン”の行動を、すなわちマフィア的な行動を問題にしている。

③ナポレオン氏は、市民が演技者ではなく**目的**である**から**、市民意識は構築されなければならない**もの**だ**という**。

④極右派の活発な中核となっている**もの**はおらず、投票は国の標準と同レベルだ**という**ことである。

H－国際関係

サルディニアの大きな港町カディラと交流している**こと**であるが、イタリア側に該当する地名はなく、南部のカリアリ(人口160万人)かもしれないが、カリアリのホームページにもアジャクシオのホームページにも交流についての記事はない。

II 2003 年のインタビュー

II-1-① 概要

2003 年のインタビュー調査は、2003 年 8 月 20 日から 9 月 16 日にかけて行われ、フランス西半分の 23 のコミューンが対象で、最北部から最西部、最南部（コルシカ島のアジャクシオには前記のように 2002 年に訪れた）にわたりコミューンの所在州（県）が広範となった。面接コミューン中、最も人口規模が小さいのは 4,725 人のバポームで、フランス第 4 の都市であるトゥールーズが最大規模（398,000 人）であった。計画段階で候補とし、インタビュー申し入れの手紙（前年同様諸事情により 7 月 15 日付と遅れた）を日本から出したのは 35 コミューンであったが、手紙もしくはメールにより 2 週間ほどの間に、面会の一般的了解を返送してきたのは 7 コミューンであった。手紙到着予定後（1 週間後）あたりから、協力者のファブロー氏が電話で具体的な旅程のための調整作業を行い、筆者がフランスに到着した 8 月 19 日までに今回の訪問先の殆どの訪問日時が確定がなされた。

筆者は、前年にインタビューの意味がおそらく判断が出来なかった秘書室の対応不十分により面会できなかった、リール市長のマルティヌ・オブリ女史（社会党）への訪問に執着したが、協力者のファブロー氏は 2～3 度の連絡で放棄したいとの意向を示し、結局今回も断念した。パリ市長のドラノエ氏（社会党）の助役からは比較的早い時期に一般的了解の返事があったが、南西部に出かける時期と重なったため、次回のインタビューを期することとなった。テュールのオランド市長（社会党書記長）の秘書室との間では他のコミューンへの訪問期間中、特にミディ・ピレネではインタビューに向かう途中も、パリをも含めて可能性を探ったが、訪問出来なかった。トゥールーズでは、市役所本庁でのインタビューと確信し、5 分前頃に受付嬢にランデヴーを告げたが聞いていないとのことで、趣旨を伝え、市長室長の所在を確認してもらったところ、確かに我々を待っているが、別の地区にある分署であるとのことであった。結局

分署の面会室前に着いたのは面会予約時間を30分あまり過ぎ、複数のグループが次の面会を待っている状態であった。我々は非礼をお詫びしたが、45分程の面接には応じられないとのことで、用意していた質問事項を複数の助役議員と市長室長に手渡し、書面回答をお願いして庁舎を出た。その後郵送での回答は届かなかった。

今回のインタビュー対象コミューンの一覧は表1に示すとおりである。前記のごとく最小規模コミューンはバポームであるが、人口1万人未満ではほかにジャルナック、ブーコーがあり、3コミューンである。1万人以上2万人代はロンズほか3コミューン、4万人以上8万人未満がカルカソンヌほか7コミューン、8万人以上10万人未満がラロシェルほか3コミューン、10万人以上がルーアンほか6コミューンである。バポームは後述のように、前フランス市長会会長で、1996年の全国アンケート調査でお世話になり、訪問時に公職・国家改革・国土開発大臣のJ.P.ドゥルヴォア氏が市長であったこともあり訪れ、また、ジャルナックは前大統領フランソワ・ミッテランが市長であったことにもよるものである。地域的には、最北部のノール・パ・ドゥ・カレ州から最西端のブルターニュ州、最南端のラングドック・ルーション州にわたり、イル・ドゥ・フランス州とアキテーヌ州が最も多く、4コミューンずつであるが、アキテーヌ州を多くしたのは、フランス・バスク地方に近接することによる特殊性があるのかどうかを見るためであった。全体で本土22州中11州に及んでいるが、これにより、02年度までに訪問した諸コミューンの所在州を含めるとフランス本土の22州全体にわたることとなった。

2003年の訪問コミューンの市長の政党所属では、トゥールーズを除きRPR、UMP、DLおよび右派が合わせて10、社会党、共産党、緑、左派が合わせて12であった。市長の年齢では、1950年代生まれが7人で最も多く、1940年代生まれが6人、30年代が3人、60年代が3人(61年生まれのエナン氏、ブトー氏が最も若い42歳)、20年代が1人(テタンジェ氏の76歳)、不明が2人(デュズ女史もシャンボー氏も60歳前後に見えた)であった。22人中女性は4人であったが、

表 1 訪問コミュニケーション一覧

date de r.	nom de ville	nombre d'hab.	rég.	dép.	nom de maire	sexe	date	parti pol.	mandat	autre mandat	profession
8/20	Caen	117,157	BN	14	Le Brethon	f	1951	UMP	1	député	professeur
8/22	Rouen	108,700	HN	76	Albertini	m	1944	PS	3	député	professeur
8/21	Calais	77,300	NpC	62	Henin	m	1961	PC	2	eurodéputé	不明
8/22	Bapaume	4,725	NpC	62	Duez	f	不明	UMP	1	なし	不明
8/26	Paris 2	20,736	IF	75	Boutault	m	1961	V	1	cons. d. P	journaliste
8/27	Saint denis	86,871	IF	93	Braouezec	m	1950	PC	2	député	instituteur
8/28	Montigny	17,333	IF	95	Hue	m	1946	PC	5	a. député	infirmier
8/29	Angers	156,000	PdL	49	Antonini	m	1940	PS	2	c.régional	médecin
8/29	Brest	156,217	Br	29	Cuillaudre	m	1955	PS	1	a. député	fonctionnaire
9/02	Niort	59,346	PC	79	Baudin	m	不明	PS	1	c. régional	不明
9/02	La Rochelle	80,000	PC	17	Bono	m	1947	PS	2	a. député	inspecteur
9/03	Limoges	137,000	Lim	87	Rodet	m	1944	PS/G	2	député	économiste
9/03	Jarnac	4,817	PC	16	Royer	m	1957	DVG	1	なし	distillateur
9/04	Bayonne	41,788	Aq.	64	Grenet	m	1939	DVD	2	député	Chirurgien
9/04	Boucau	7,126	Aq.	64	Espiaube	f	1960	PC	1	なし cand. dé.	médical
9/08	Lons	11,611	Aq.	64	Chambaud	m	不明	RPR	4	なし	médecin
9/09	Carcassonne	46,000	LR	11	Chesa	m	1937	RPR	4	a. eurodéputé	不明
9/09	Montauban	54,421	MP	82	Barèges	f	1953	UMP	1	député	avocate
9/10	Toulouse	398,000	MP	31	Douste-Blazy	m	1953	UMP	1	député	professeur
9/10	Albi	49,000	MP	81	Bonniecarrère	m	1956	RPR	2	c. général	不明
9/11	Vichy	78,000	Auv.	03	Malhuret	m	1950	DL	3	a. ministrre	médecin
9/15	Paris 16	170,844	IF	75	Taittinger	m	1927	DL	2	a. ministre	distillateur
9/15	Bègles	22,600	Aq.	33	Mamère	m	1948	V	3	député	journaliste
9/16	Quimper	67,000	Br	29	Gérard	m	1937	UMP		sénateur	不明

人口10万人以上のコミューンの4人の女性市長のうちの1人が統治するカンでは助役のトゥルーヴェ女史が対応し、ブレトン市長とは面会出来なかった。前年のストラスブール、エクス・アン・プロヴァンスを合わせ、人口10万人以上で女性市長である4つのコミューンのうち3つでインタビューしたことになるが、いずれの場合も市長室長や助役などであった。なお、上の4人のすべてが、現在もしくは以前に国民議会もしくは上院議会の議員を兼任している。モントーバンでは、バレージュ市長のほか2人の女性議員が対応してくれた。後述のように2003年度のインタビューでの質問事項は、ほぼ前年度を踏襲するものであったが、M14をはじめ、自治体会計問題を強調し、特にM14の適正な運用で早くから知られるアンジェとサンドゥニでは、会計担当者との別途の面談を設定した。なお、サンドゥニでは、同コミューンのスタディウムで開催されていた世界陸上のプログラムの関係上都合がつかず、急遽会計を中心とするインタビューだけとなった。

II-1-② インタビューテーマおよび質問内容

◎2003年市長インタビューテーマ

インタビューでの質問は次に示す9テーマで、Iのバスク問題を除き27問であったが、時間・自治体状況の都合から省略したものもある。前記のように2001年および、特に2002年のインタビューでの質問内容を踏襲しているが、各テーマ内の質問事項に関して修正しているものもある。なお、財政民主主義3～5については、2番目のカレ市でのエナン市長へのインタビューを終えて、技術的過ぎると判断されたため、サンドゥニとアンジェ以外では省略した。また、バスク（問題）に関する質問はアキテーヌ州およびミディ・ピレネ州の幾つかのコミューンでのみ行った。さらに時間や市長の政党所属などの関係から特に質問したことなどもある。

—2001年選挙、—パリテ、—近隣民主主義、—財政民主主義、—安全・生活の質、—フランスにおける民主主義の将来、—コミューン組

合・コミュン共同体、一コミュンの国際協力活動が共通質問で、一バス地方の問題についてバイヨンヌ他アキテーヌ州で質問し、また前記のように一M 14 についてアンジェとサンドゥニでは、会計担当者との別途の面談を設定した。

◎質問内容

A：2001 年市議会選挙

- 1 どのような困難がありましたか。
- 1-2 それらの困難を克服すべく何を行いましたか。
- 2 別の選挙任務に関して、同種の質問に答えてください。

B：パリテ

- 1 現行法以外の方法でパリテを実現できる道があったと考えますか。
- 2 選挙の準備に当たってパリテ法を適用するために出会った最大の困難は何でしたか。
- 3 パリテ法を全体としてどのように捉えますか（目に見える変化、長所、問題点など）。
- 4 パリテ法を他の水準で適用するために、どのように選挙制度を改善すればよいと思いますか。

C：近隣民主主義

- 1 あなたのコミュンでの地区議会はどのように組織されていますか。
- 2 地区議会並びに個々のプロジェクトの予算はどのように機能していますか。
- 3 地区議会において取り組まれ、もしくは取り組まれるべき計画や事業の事例を示してください。
- 4 地域民主主義の観点から、近隣民主主義法をどのように評価しますか。自治体運営、野党の役割、住民参加、地方分権などに関してお答えください。

D：財政民主主義

- 1 あなたのコミュンの自主財政に障害となっている困難は何

フランス地域民主主義の現状 (鈴木)

ですか。

- 2 (国、州、県、コミユンの各水準で)コミユンの財政的自治を図るために取るべき方策は何ですか。
- 3 M 14 の指針を受けて、あなたのコミユンでの会計運営上何らかの困難がありましたか。
- 4 M 14 指針をよりよく適用し、特に住民の意見を考慮するために市長や会計責任者は具体的に何をしていますか。(定期的な情報提供など)
- 5 この指針の適用状態に関するあなたの観察はどのようなものですか。

E：間コミユン組合、コミユン共同体

- 1 近隣コミユンとの間でどのような組合を形成していますか。
- 2 これらの組織での事業計画や運営上で存在する問題は何ですか。
- 3 あなたのコミユンはコミユン共同体に参加していますか。それは何ですか。
- 4 この共同体の運営にあたり生じる困難は何ですか。(権限移譲、財政、上部機関の監督など)
- 5 組合や共同体の運営が住民にとって分かりやすいものであるとお考えですか。そうでないとすれば、これらの運営の透明性を改善するために何を展望できますか。

F：安全・生活の質

- 1 あなたが抱えている問題は何ですか。
- 2 それを克服するために何をしましたか。

G：フランスにおけるデモクラシーの将来

- 1 フランスにおけるデモクラシーの将来という観点から、次のテーマについてどのようにお考えですか。

* 議員の役割と責任について。

* 公務員の責任について。

- *異なる層（コムン、県州）での関係について
- *市民の公共精神の状態について。
- *政党および市民水準における極右の上昇について。
- *国家権力の望ましい発展について。

H：外国の自治体との国際協力

- 1 外国のコミュンとの交流はどのような分野でなされていますか。
- 2 国際交流活動は、民主主義に貢献する一つの方法とお考えですか。
- 3 日本の地方自治体との姉妹都市提携に興味がありますか。

I：バスク地方の特別な権限について

- 1 あなたの地方にどのような特別な権限移譲を認めてもらいたいと思いますか。
- 2 あなたは地方で認められる特別な権限移譲について、どのような展望を持っていますか。
- 3 この権限移譲について、最初に出会う困難は何だと思いますか。
- 4 フランスが連邦的な制度として構成されることを望みますか。

II-2 インタビュー報告

II-2-① カン (2003年8月20日13:18~14:17)

◎カン小史

1966年以後進められた発掘が、当時まで認められていた意見にも拘らず、かなり重要なガロ・ロマンの居住域が、ノルマン人区域の建設とギョーム・ル・バタールが彼らに与えたその範囲を、広範に上回っていたことを想定させている。実際、1025年以後の文書の中にのみ記載があるこの町はその発展を、そこを、次のような理由からバス・ノルマンディの首都にしようと望んだ公爵の創設に負っているはずである。すなわち、戦略的理由(オルヌの通過点で十字路)、

経済的理由 (オルヌの港でベサン、プレーヌ、ボカージュ) および、そこでギョームとマチルドが、彼らの遠縁同士の結婚を容認させることになる大修道院を建設した場所であるという感傷的な理由である。1066年のイギリスの征服以後港は多いに栄え、12世紀におけるアングロ・ノルマンの中心の1つとなり、町はそれぞれが広い領域により隔てられ、壁で防護された様々なブルからなっていた。大修道院長のブル、女子大修道院長のブル、公爵のブルがそれらのうち最も重要なものであった。1204年のこの地方の再編は、国の内部に関心を向ける町の経済を転換した。100年戦争と、特にイギリスのヘンリー5世による1417年のカンの占領は、摂政ベッドフォードが1432年に、パリ大学のライヴァルとして大学を創設したが、町を貧困化させた。1450年のフォルミニエーの勝利は、ノルマンディーのフランスへの復帰を最終的に確定し、カンは宗教改革の出現まで新たな繁栄の時代を迎えた。宗教改革はカンに大きな熱狂を齎し、このことから血まみれの無秩序を引き起こしたが、ナントの勅令が静穏を戻し、カンは、その時期、美しい館が建設され、宗教的施設が増加した豊かなブルジョアの町になっていた。1685年におけるナントの勅令の廃止は、一部の住民の移住を引き起こしたが、カンは20世紀初頭に、港の拡張と金属工場の設置にともない軌道に乗せられることとなる一定の経済的重要性を保った。1940年には免れたが、カンは1944年6月6日以来連合軍の攻撃とドイツ軍の防衛の起点となった。1ヶ月の間カンを破壊した絶え間ない爆撃と11日間町を焼き尽くした火事は瓦礫の山を残し、郊外の大修道院だけが浮かんでいたが、それらを取り囲んでいた木造の家屋はすべて消失した。1944年に全面的に崩壊した製綱所は1951年に活動を再開した。運河により海につながる港は拡張、整備され、フランスで6番目の扱い港になっている(1999年には2,553,723トン)。メテル・ド・ボアロベール、ジャン・マロ、作曲家オーベール、画家ウスタシュ・レストゥ、ムーラン将軍などの故郷である。Quid.fr

カンは仏英海峡のフランス側海岸の東(海拔8メートル)にあり、

カルヴァドス県の県都、バス・ノルマンディー州の州都で、2,578 ヘクタールの市域に 117,157 人の人口を擁するフランス主要都市のひとつである。またカンは人口 10 万人以上のコミュンのうち、女性市長を抱く 4 コミュン（他はリール、ストラスブール、エクス・アン・プロヴァンス）のうちの 1 つである。

◎ル・ブレトン市長 Brigitte le Brethon

市長のル・ブレトン女史は 1951 年にカルヴァドスの小村 Campeaux (人口 505 人) で生まれ、経済学・経営学を専攻し教授経験を有する。1983 年から 2001 年まで UMP (RPR) のカン市議会の助役、1985 年以後、カルヴァドス県議会副議長やバス・ノルマンディー州議会副議長を務め、2001 年のコミュン議会選挙でリストの筆頭となり、市長に選ばれている。また、2002 年の国民議会選挙で、カルヴァドス県 1 区選出の議員となった。

面接に応じたのは、人事および近隣民主主義担当助役のトゥルーヴェ婦人であった。(トゥルーヴェ婦人 Claire Trouvé: 雇用・連帯大臣の下での任務を経験、13 番助役〈16 人の助役がいる〉、職員の地位・近隣民主主義業務の責任者、役割: 職員人事・職員教育担当、パリテに関する責任者、衛生と安全担当、近隣民主主義・行政手続・選挙・市民生活担当)

◎回答概要

A - 選挙

今回の選挙では、ジロー氏(1983 年以來のカンヌ市長。www.ipsos.fr/municipales2001/Caen/caen.htm) の継承のための選択が提示された。対抗リストの筆頭は社会党所属で大臣経験があり、国民議会議員であった長老メザンドー氏であった。トゥルーヴェ女史の言葉では、“第 1 回選挙はひじを付き合わせる状態—接戦”であったというが、ル・ブレトン女史の 42% に対し、メザンドー候補は 20% であるので、この表現は不明である。しかし、第 1 回投票の後、UDF、RPR、MF (Monsieur de Villiers)、除名された極右の間の連携が実現したという。また第 1 回投票での成功のおかげで、第 2 回投票

での成功 (57%対 42%) があったということである。

www.ipsos.fr/municipales2001/Caen/caen.htm

選挙時の困難に関して、彼女のリスト関係者が望んでいたトラムウエーの設置について、住民の反対が多く、選挙に向けての集会では取り下げざるを得なかったということである。地域集会で取り上げられた緊急事項は環境と安全だったということである。

現在フランスの主要都市における交通計画では、tramway がキーワードとなっているようだ。さしあたり、http://eurotram.web.infoseek.co.jp/jp_top.htm が参考となる。

安全の問題は、この年の市議会選挙で大きな状況的課題となっていたようである。軽犯罪についての報告に見られる問題が、選挙当初から問題となっていたというのである。政治記者や左翼のリーダーたちがそれについて警鐘を鳴らしていたということである。大統領選挙でも同様であった。その点で2002年の大統領選挙でジョスパン側が課題化しなかったのは敗戦の1つの理由ではないか。

安全問題に関わって、ル・ブロン市長にとって、女性であることがプラスになったのではないかと、具体的には不明である。他方で、トゥルーヴェ女史によれば、ル・ブロン市長は“透明性の中で” “積極的に接触を持つ” 候補者であったということである。

彼女らは、被治者たちの“日常における諸困難”を考慮している。トゥルーヴェ女史によれば、これらの“日常的な諸困難”こそFNの台頭を説明するものだというが、具体的論理は不明である。

トゥルーヴェ女史は“カンには大きな問題はない”として、一定のコミューンに見られる問題を抱えた地区をほのめかしているようであった。

前記のように、第1回投票では多くのリストがあったが、第2回投票で結合されたということである。ル・ブロン市長は、第1回投票の後、結合が最も有効であると考えていたという。彼女らは、自分たちのリストを、キャンペーン文書で候補者の政党所属を明示せず示したということである。

②社会党のメザンドー氏は国民議会議員であった。彼に対抗して立候補 (calvados 1 区) するのは、1 つの戦略であった。彼の国民議会議員の席 (calvados 2 区) を失わせることは、次の諸選挙で彼の対抗馬としての危険度をより低めるということであったからである。

B-パリテ

①“パリテ法は女性を政治に近づかせることを可能にした”ということである。トゥルーヴェ女史は、自分が“フェミニスト”であると表明していた。同様の意味でル・ブレトン市長が“フェミニスト”であるか否かは不明である。彼女の外見からもうかがい知れ、また、表現方法も、男性と伍していくことを意識した強い意志のフェミニストに見えた。トゥルーヴェ女史は、パリテ法が“民主主義についての進歩”であり、この問題が“生物学的地平にではなく、“文化的地平”に属する事項であり、すなわち、心理学的に見て男女が平等であると考えているのであろう。彼女はまた、懐妊に関する法の制定が、両性の平等にとっての決定的瞬間であったと述べていた。こうした話題の出し方は、やはり彼女が“フェミニスト運動”に強い共感を持っていることを示すものであろう。

②トゥルーヴェ女史は、“適切な女性を探し出す”のが難しかったとしている。フェミニストを自称する彼女の言葉として、あるいはル・ブレトン市長の言葉としても奇異な感を受ける。彼女たちが、男性に引けをとらない、もしくは男勝りの女性を求めていたからなのであろうか。

③トゥルーヴェ女史は、“フランスが保守的社会であり”この点から法によるパリテの獲得は“良いアプローチだった”と考えている。

④別の次元の選挙に対しては“何も出来ない状況であり、“従って、パリテは“継続的な革命である”というのが同女史の見解であった。

C-近隣民主主義法

トゥルーヴェ女史は、地区の諮問会議の創設は選挙に臨んで表明されたという。2002 年 1 月の市議会に現在ある 5 つの諮問会議が創

設され、議会メンバーのリクルートは広報誌で伝えられたということである。

2002年秋に住民が志願し、会議への参加者になるためにくじ引きをしたということである。各諮問会議には3委員会があり、諸協会、住民、企業に関するものだという。各諮問会議の議長は市議会議員であり、トゥルーヴェ女史自身も1つの会議の議長だということである。

諮問会議には予算はないということである。そこで出された意見はコミューンでの計画に“登録される”ということである。また、1人の職員が市当局と諮問会議との協調のための任務についているということである。

地区での集まりは、様々な計画に関して開かれるということであり、11の市分局に“意見箱”が置かれているということである。

トゥルーヴェ女史は、諮問会議“conseil consultatif”と繰り返していた。そのため、上の訳においても諮問議会か、諮問会議か、諮問委員会かで迷った。このことは、彼女およびル・ブロン市長が近隣法をどのように位置づけているかを物語るであろう。他方で、彼女は、諮問会議での意見は、上記のように“市のプランに登録される”という。また、彼女は、このテーマの初めの方で、諮問会議のほかに若者議会や、協会の議会があると言っているが、それは、市行政の問題であり、違う水準である。彼女が近隣民主主義法について、彼女の経歴にも拘らず十分に理解していないか、カンが法の最低限の遵守に留まっていることの現われではないか。

D-財政

カンは都市圏共同体の中心であり、“費用軽減をもたらす”が、“資源の減少”をも招くということである。これ以上についてトゥルーヴェ女史からの説明は加えられず、彼女が用意したE-“都市共同体”およびF-“生活の質”についてのメモに頼るしかないので、質問を取りやめた。彼女は財政問題については、踏み込める準備をしていなかったのかもしれない。

EとFについては省略する。

G—デモクラシーの将来

この設問についてトゥルーヴェ女史はすべてに答えようとし、国のあり方、政府間関係、社会・労働問題、国民意識、FNの台頭に触れて説明したが、広範すぎて踏み込めなかった。

国は支配者“*gérant*”なのか、保証人“*garant*”なのかと自問していたが、どちらかに断定はしていなかった。同女史によれば、地方分権政策が功を奏したが、国はなお多くの権力を保持し、“重複”現象が生まれているという。各水準での適正な配分が必要だというのが、一般的な指摘に留まっていた。また、公務員（官僚）と政治家との調整が必要としている。

人々は今日“個人主義の文明”に陥っているが、“共同性を学びなおさなければならない、”というのがトゥルーヴェ女史の意見である。各所に落書きがなされる現状を、特に歴史的都市であることとも絡めて嘆いていた。また、オーブリ女史・元労働大臣、現リール市長の35時間労働制について、批判的に言及していたが、展開されなかった。

極右の台頭について、トゥルーヴェ女史は社会党の責任であるとしている。一部の政治家や政治学者の間で、ミッテランが共産党勢力の減退のために極右の台頭を容認・優遇する戦略をしいたという説が出回ったというが、どうであろうか。共産党支持率は減退し、極右が反比例的に台頭したのは事実だが、それとミッテランとの関係は不明である。これには、共産党の見解、社会党の見解、ルモンドやフィガロの論評、学者論文などにあたるほかないが、ここでは無理である。仮に社会党が、極右の台頭に責任があるとすれば、2002年の大統領選挙で、社会党が、自分の養った極右により滅ぼされたということになるであろう。他方でパリ16区の市長が言うように、UMP側が、ジョスパンを落とすために、極右を優遇した事実があるという説もある。どちらも想定は可能であろうが、それ以上に、9/11以後の世界、フランスでの安全問題、それに対する社会党の判断

停止もしくは理解・説明不足、シラクの思惑、FNの活動経緯などからの説明の方が妥当なのではないか。いずれにせよ踏み込めない。他方で、トゥルーヴェ女史によれば、極右は“社会組織の欠陥を隠す付帯症状”だという。FNは、安全問題を喧伝することにより、フランス人の気を引いたというのである。安全に関して、さらに広く現代社会の仕組みに関して、彼女は、“組織だった研究” *“étude systémique”* を望んでいるということである。これ自体は頷きえる見方であろう。先の社会党に対する責任追及とは矛盾しないのか。いずれにせよ、トゥルーヴェ女史のこの問題提起は有用であろう。現代社会・資本主義の諸弊害の組織的研究にもとづくとき、政治家はその弊害への対応により多くの力を注ぎ、人々の支配を削減することになるであろうからである。

II-2-② ルーアン (2003年8月21日17:56~19:20)

◎ルーアン小史

オート・ノルマンディ州州都、セーヌ・マリタイム県県都であるルーアンは、海拔10メートルに2,145ヘクタールの面積に広がり、108,758人の人口を有するフランスの主要都市のひとつである。

古代には *Vélicasses* の首都で、ロトマグス *“Rotomagus”* : *magus=marché* として、ガロ・ロマンの重要都市、リヨンに次ぐ第2の首都となっていた。地域は3世紀に、聖ニセーズにより伝道され、続いて300年頃聖ムロンにより司教座が建てられ、535年に、7世紀になってサントゥーアンの名を持つことになる大修道院が創建された。18世紀初めに、ルーアンとその周辺には36の司教区と56の修道院、女子修道院があった。560年にシルペリック1世がここで、ガルスヴィンテを娶り、続いてシゲベールが566年にブリュネオを娶っている。この結婚を祝福したプレテクスタは、フレデゴンドの命令により大聖堂内で暗殺された。ノルマン人は9世紀に度重なる攻撃により町を奪い取った。その後、ロロンがノルマンディーの最初の公爵になり、その居城を定めたとき、平和が戻った。1204

年にフィリップ・オーギュストがルーアンを再統合し、すべての公爵領が王権に服した。イギリスのヘンリ 5 世が 1419 年に、アラン・ブランカールの英雄的な防衛にも拘らず、町を略奪したが、シャルル 7 世が解放した。この間 (1431) ジャンヌ・ダルクが古い市場 le Vieux-Marché で断罪され、処刑された。町は 15 世紀、16 世紀に新しい発展を遂げ、宗教戦争の過程で崩壊した。アンリ 4 世の父、ブルボンのアントワーヌは 1562 年にギーズ公フランソアによりルーアンの壁の下で殺された。1588 年にアンリ 3 世が和解の協約にサインした。ナントの勅令の廃止は町に重い障害となった。商業はナポレオン 1 世になるまでその重要性を取り戻せなかった。1940 年に町は、セーヌ川沿いの中心部とその他で甚大な爆撃を受けた。パリと北ヨーロッパ向けの貨物集配拠点として、中世全期と 16 世紀にも重要な港であったが、水路の砂洲、海までの長く蛇行する河口、ルアーヴルの競争が、セーヌ下流域での航海が改善され海洋装備が近代化される 19 世紀まで、ルーアンの衰退を招いたが、その後パリの近接港の地位を取り戻した。著名人としては、悲劇作家のピエール・コルネーユとプラドン (17 世紀)、ミシシッピ川の開発者カヴリエ・ドゥ・ラサール (17 世紀末)、ジェジュイットの学者ダニエル神父、歴史家ルジャンドル、作家フォントネル、画家ジャン・レストウ、建築家ブロンデル (18 世紀)、作曲家ボアルデュー (19 世紀始め)、画家ジェリコー、博物学者プシェ、作家ギュスタヴ・フロベール (19 世紀) などがいる。

<http://www.quid.fr/communes.html?mode=detail&id=16727&req=rouen&style=fiche>

1449：シャルル 7 世による町の占領

1484：ルーアンでの印刷の開始

1485：ブルタワーの建設

1494-1510：アンボアーズのルーアン大司教ジョルジュ 1 世が町にルネッサンス文化の移入を奨励

1525：ジャック・ルリウールのフォンテーヌの著作

- 1550：アンリ 2 世の入市の際のブラジル祭り
 - 1562-1594：宗教戦争
 - 1592：コルネーユ高校の創設
 - 1654：オテル・デューの建設
 - 1666-1669：ペストの最後の大流行
 - 1744：ルーアンアカデミーの創設
 - 1785：ノルマンディ日報（雑誌）の発行、後にルーアンジャーナルとなる
 - 1789：新しい革命組織の設置
 - 1800：サン・トゥアン聖堂の旧施設での市役所の開設
 - 1802：ボナパルトがルーアン来訪
 - 1843：パリールーアン間の鉄道敷設
 - 1859：ヴェルデルが市中心部の都市計画を実施
 - 1870-1871：プロシア軍の占領
 - 1940：ドイツ軍のルーアン侵攻
 - 1944：赤い週間ールーアン爆撃
 - 30/8/1944：カナダ軍によるルーアン解放
 - 1968-1993：ジャン・ルカヌエ市長
 - 1979：ジャンヌ・ダルク教会完成
 - 1989-1994-1999-2003：帆船、世界の“bateaux gris”の大集合
- <http://www.mairie-rouen.fr/decouvrir/histoire.php>

◎アルベルティーニ市長 Pierre Albertini

アルベルティーニ市長は 1944 年にアルジェリアのバツナ Batna で生まれ、大学講師(歴史学)を経験し、UDF に所属している。1983 年からモン・サンテニャンで市長（3 期）の政治経歴があり、1993 年以来セーヌ・マリティーム県選出の国民議会議員でもある。また一時期オート・ノルマンディ州議会の副議長も勤めている。また、現在は UDF の副議長である。

◎回答概要

A－選挙

アルベルティーニ市長はルーアンの北にあるモン・サンテニャン(人口2万人)の市長であったという。選挙の6～7ヶ月前に党(UDF)公認候補が立候補をあきらめたため、アルベルティーニ氏に打診があり、特別な意欲はなかったが最終的に受け入れたということである。

ルーアンでは、1968年から1993年までMRP、CDS、MRのジャン・ルカヌエ氏が市長であった。1993年にルカヌエ氏が死に、助役のゴーティエ氏が後を継いだ。1995年には、ゴーティエ氏を破り、社会党のイヴォン・ロベール氏が市長に当選したということである。

アルベルティーニ氏は、6ヶ月しか選挙運動期間がなかったにせよ、かえって、“本質的なことだけ”を選挙民に伝えるには良い結果であったというが、内容は展開されなかった。

この地では、社会党の前市長ロベール氏は良いイメージを持っていたという。穏やかで、気さくで、カトリックであったということである。2001年1月の調査では、54%をもって社会党候補が勝利するとされた。2月には52%に減ったが、3月の調査でも社会党優勢とされていたということである。アルベルティーニ氏は、自分の立候補の遅れがこのような結果を齎したという観測であった。第2回投票では、僅かに800票の差でアルベルティーニ氏が凌ぐ結果となった。

B－パリテ

アルベルティーニ氏は、国民議会議員として、パリテに関する提案を自らした経過があると言う。国民議会のホームページ上での紹介によれば、同氏は現在まで38の法案の提出を行っているが、パリテに関する同氏による直接の提案は見当たらないので、ここで言う提案というのは仲間内でのことであろうか。あるいは、提案責任者もしくは共同提案者ではないが、関与者の1人であったのかもしれない。他方で、罰則を設けるのではなく、“褒賞”をもってなすべ

きだと言っているが、理解しがたい説明である。ともあれ、アルベルティーニ氏は、法による解決という選択が安易な解決策であったが、肯定的な意味を持っているとしている。さらに、女性が事柄に対して、彼女たちの行動と視点により積極的な貢献をもたらすと評価する。

他方で、アルベルティーニ氏は、今回の選挙期間の短かさからリストに女性を加えるのに幾分の困難を経験したとしている。

④単記投票制を維持すべきだが、議席の一部は比例制にすべきと
いっているが、どのレベル（県、国民議会、上院）でかについては明らかにしなかった。国民議会をはじめ各種選挙で併用制をとる場合、比例部分の割合を高めることにより、よりパリテに近づくことが可能であろうが、それがフランスで可能性をどのくらい持つのか、またそれに至るために解決すべき事項などについては示されなかった。現行の州議会議員選挙の方式（比例代表）を見本としたいのであろうか。

国政について、国民議会の議員数を現在の577人から500人に削減するよう主張するが、理由については明示されなかった。他方で、議会に多様性をもたらすために小政党からの議席があるのが良いと言うが、それを選挙制度上の改革などと絡めて具体的に実現する方法については語られなかった。また、なぜ多様な意見が必要かについて、現状が片寄っているのか否かも含め示されなかった。

C-近隣民主主義

前任者が1997年に地区議会を創設し、改善するために15に増やしたということである。地区議会には情報交換に有用と思われる活動のために必要な僅かな予算が充てられているという。アルベルティーニ氏は市民の行動と意識を分析するために地域民主主義の観察室を設けたという。1997年から2001年間の確認では30%から40%の範囲で無関心層を登場させたという。それぞれの地区のアイデンティティを伴う目的は、全般的な連帯の精神の中で町のアイデンティティ発展と結合させることであるというが、分かりにくい表

現である。地区議会のメンバーの 30~40%がこのような一般的アプローチにたって参加しているということである。例えば、セーヌ河岸の大規模な都市計画プロジェクトについてもそうであったという。

ルーアンには野党のための討論会が存在したという。野党が自由に使える地区事務所(集会場?)が残されているという。アルベルティーニ氏は、野党の役割が“批判的、監視的、選択対論的”なものであるという。現在、野党の一定のメンバーは地域問題と国家的課題との混同をしているということである。いずれにせよ彼は、国内問題に関して市議会が議論するよう呼びかけているとの事であるが、不明瞭な表現である。

アルベルティーニ氏は“分権化が各層(コミュン、県、州)の権限水準を規定付ける”よう希望している。彼はまた、“権限のぼかし”が存在し、“分権化がそれぞれの機関の課題に改めて専念することが出来るようになれば良い”としている。また行政における“透明性”が必要だと言っているが、具体的には展開されなかった。

D-財政

“ルーアン市の財政は危機的である”ということである。アルベルティーニ氏は財政システムが“アルカイック”で、“税制が経済的目的合理性なしに制定されて”おり、また、“固定資産税と住居税の伸びが有効ではない”ということである。財政システムの改善以上に“様々な要求の増加が進んでいる”と言うのである。

アルベルティーニ氏は、“多くの都市が都市圏共同体のための職業税収入を減らしている”と言う。1999 年以来税率 1%は固定的で、これが財政のアンバランスを招いているという。ボルドー、リヨン、ルーアンなどが事例とされるが、ルーアン都市圏共同体 Communauté d'Agglomérations de Rouen では、中心市の市長が共同体議長になっていないということである。このことから、共同体との調整に多くの苦勞が伴うということである。ルーアンの人口は 34 のコミュンからなる共同体の人口の 24%に過ぎないということである。

あるが、このこととの関連でなにかルーアンに不利なことがあるのかどうかは不明である。

G－民主主義の将来

アルベルティーニ氏は“フランスが迷い *dans la situation de doute* の中にあり、政治的無力感を抱いている”と言う。同氏は“個人主義の発展”と“地方機関への責任の移行”を指摘するが、後者については分かりにくいものである。彼はまた、“政治家がデマゴギーを出し続けている”というが、不明である。“1978年以後どの多数派（政権与党）も次の国民議会選挙で再生されず、破れている”ということを指摘している。(1978 右、1981 左、1986 右、1988 左、1993 右、1997 左、2002 右) <http://www.election-politique.com/legislatives.php>

アルベルティーニ氏は、政治が“方向性（健全感）を与えるものでなければならず”、“政治文化の革命が必要だ”としている。同氏はまた、“ヨーロッパに2つの危機の国があり、フランスとドイツだ”と断定し、スペインやイタリア、イギリスをむしろ評価しているが、前者が発展速度は大きい、確実な発展という意味では後者の方が優れているという。アルベルティーニ氏が丁寧に対応してくれた結果、この間に関しては時間不足であった。

II－2－③ カレ (2003年8月22日12:07～13:23)

◎カレ小史

カレはノール・パ・ド・カレ州パ・ド・カレ県の海拔5メートルに3,350ヘクタールの面積を有する主要都市である。ノール・パ・ド・カレ州の州都はリール（人口191,164人）で、県都はアラスで人口が43,566人であるのに対し、カレは78,170人を擁する。

カレは海から生まれた町である。フラマン人の海洋岸の西果てに位置する漁民の小さな町で、1181年頃に“慣習の憲章”を受け、1190年に港を譲り受ける憲章を受けた。1196年にイギリスの羊毛輸入と食料輸出のために商人組合、ギルドが結成された。13世紀に町はア

ルトア伯爵に従属した。多くの宗教的施設ができた。カルメル会、フランシスコ会、病院である。1346年9月3日から1347年8月5日には、11ヶ月の有名な占領があり、町のブルジョアはイギリス王の人質となる。町は210年間イギリスの支配の下にあった。この支配は1347年に、エドワード3世に町の鍵を渡した、裸足で首に綱を巻かれて来た、6人のカレのブルジョアの降伏のつらく輝かしいエピソードにより始まった。このエピソードが、1895年にオーギュスト・ロダンのブロンズ彫刻により、カレを歴史と不滅の中に入れたのである。1558年に、ギーズ公フランソアがカレをイギリスから奪い返した。しかし町が最終的にフランス王国に統合されたのは、2年間のスペインによる短期の支配の後、1598年以後のことであった。

革命時には、革命委員会の拠点となる。

カレは新たに、ブルボン王位を保持すべくフランスに入り、イギリスでの亡命から帰ったルイ18世を1814年春に迎えたことで、大きな歴史の中に入る。この帰還は、特にカレとドーヴァー間の航行者の移動にとっての、新たな海洋上の飛躍を記している。このラインは1821年に蒸気船で連絡される大陸からの最初のものとなった。1885年には、961年以後の記録を持つサン・ピエールと合併した。

19世紀は新たにイギリスからの侵略を受けたが、これは平和的なもので、ノッティンガムから不法に入った“チュール織”の労働者とその職業の到来と食料品産業をもって、カレは経済的発展を遂げた。織物労働者らはカレをLeavers式レースの世界的な中心地にしたのである。カレは今日もなお、1970年代の危機にも拘らずその地位を占めている。

1939年から1945年の戦争の過程で旧市街が火事になり、その大部分が消失した。第2次大戦の爆撃を受けて、数千の家屋が消失した。カレは今日最重要な港湾都市となり、旅客港として世界第2位、商業港として第4位となっている。1994年の海峡トンネルの開通、ユーロスターと国道A16およびA26の連絡はカレを海峡間の首都、フランスおよび大陸ヨーロッパの港とした。両大戦間の大きな

破壊 (第2次大戦では町の90%が破壊された) にも拘らず、都市は今日まれに見るモニュメントに誇りを持っている。

人物として、植物辞典の著者でカレ年鑑の著者ピエール・ベルナール(1653-1732)、作家ピゴー・ルブラン(1753-1835)、Lady Hamilton (1815年に当地で死去)、機械織チュール産業の創業者ロベール・ウェブスター (1855年死)、アンリ・バイヨン (1827-1895)、ドゴール將軍の夫人イヴォンヌ・ヴァンドゥルー (1900-1979) がいる。

<http://www.mairie-calais.fr/histoire.htm>

<http://www.quid.fr/communes.html?mode=detail&id=26690&req=calais&style=fiche>

◎エナン市長 Jacky Henin

ジャッキー・エナン氏は、前市長のジャン-ジャック・バルト氏 Jean-Jacques Barthe (1971-2000) の後を受けて2000年から市長職にあり2001年選挙で再選された。1961年生まれで、共産党(全国委員)に所属し、2004年にヨーロッパ議会議員になった。また、カレ都市圏共同体の議長でもある。共産党の場合、このような継承方式がよく見られる。

◎回答概要

A-選挙

エナン氏は、前記の様に選挙10ヶ月前に市長となっていた。立候補においては左翼同士で社会党の代議士アンドレ・カペ André Capet との共闘調整問題があったが、同氏が死去 (12/31、61歳 mondepute1997.free.fr/depute119.htm) し、エナン氏が左派連合 PCF、PS、MDC の中心となったということである。第1回投票ではエナン氏が12,485票、47%、共和国連合24%、右派14%、緑6%、労働者の戦6%であった。特記すべきは棄権が44.2%だったということである。(<http://www.humanite.fr/journal/2001-03-17/2001-03-17-241289>) 第2回投票では、左派リストが57.86%、ルクレール氏の率いる右派連合が42.14%でエナン氏が勝利した。ユマニテは、この勝利を、緑、労働者の戦を含む連携がうまく機能した結果とし

ている。(同前 2001-03-19/2001-03-19-241367) 選挙期間中、エナン氏は“真実を話す”ことを心がけたと言うが、展開されなかった。

B-パリテ

エナン氏は、パリテを実現するために法によるよりも賢明な別の方法があり得たと言うが、具体的にどのような方法かを示さなかった。ただ、“パリテが法により実現された”ことには満足していると告白している。

エナン氏は、女性が懸案事項に対して固有な視点からのセンスを向ける力があると評価する。選挙リストへのリクルートは、“能力と意欲”を基準になされ、結果、“ステレオタイプ”的とはならなかったということである。

④エナン氏は、“最良の選挙制度は比例代表制である”と言い、議員、例えば国民議会議員が同数の票を代表していないと付け加えている。パリの人口密集地と過疎地における当選得票数の差異、従って票の重みが問題となるが、現行のフランスの各種選挙制度全般に関わる問題であり、ここでは踏み込めない。

2004 年(3月21日、3月28日)の州議会議員選挙では、全議員 1,883 人中 47.6%、897 人が女性となった。これは 1998 年の 27.1%、467 人に比べ 20%強の伸びを示した。しかしなお、州議会議長は 22 州中ただ 1 人(1998、3 人)で、また 2004 年(3月21日、3月28日)実施の県議会議員選挙の後議長になった女性は 100 県中 3 人である。

http://www.inegalites.org/rubrique-mot.php3?id_mot=43

<http://www.election-politique.com/regionales2004.php>

<http://www.interieur.gouv.fr/avotreservice/elections/reg2004/index.html>

C-近隣民主主義

この問題に関するエナン氏の第 1 の評価は、“地域のコミュニケーションを豊かにすること”だという。現在カレには“実験的に”4 つの地区議会を置いているが、“最終的には 10 議会”を考えている

ということである。地区議会には“小さなプロジェクトに対して小予算”が充てられているという。市議会議員は、地区議会の代表にはなれない。

地区議会は、“市民との継続的な出会い”を可能とする。また、エナン氏は、週刊、月刊の市通信、刊行が始まった若者雑誌を含めて、市民との関係を自分の視野の中に入れていているということである。

D－財政

エナン氏は、“国の天引き”に対して議員たちがストライキを起こしたことを強調していた。“補助金は投資に対応していない”とも言う。かくてエナン市長は“税制の全般的改革”を望んでいる。

M14に関して、エナン氏は、それが物品購入にあたってまとめて注文することを要請し、これは、市役所の様々なサービスに必要な物をまとめなければならないので、重荷であるばかりでなく、注文従って物品の搬入の遅れを来たす事になると批判している。エナン氏はまた、購入物品の取りまとめの方式では、地域の扱い者への注文をもはや出来ず、大きな業者との取引を優遇することになると指摘している。他方でエナン氏は、M14が減価償却を義務付けたことに注意を向けている。

E－組合と都市圏共同体

カレは家庭ごみの組合に加入しており、“生物メタン”について触れていたが、展開はされなかった。都市圏共同体が交通業務に関して組織されているということであるが、どのような内容かについては展開されなかった。

F－安全と生活の質

カレには3つの大規模な製薬企業があり、それらのうちの一定部分がより大きなアメリカの製薬企業のための仕事をしているという説明があったが、このことが質問にどう結びつくのかについては不明である。薬品製造にともなう、発生物や廃棄物の生活への悪影響を想定しているのだろうか。

G－民主主義の将来

エナン氏は“比例（代表？）問題”や“住民のための活動”について触れている。他方で、“議員に権限を与えている”のは市民であるのに、“市民の投資（関与）の欠如”が見られ、“市民としての責任”を取っていないことに触れていた。

エナン氏は、“市民を守るための強力な国家”に賛成する立場にあり、“徴兵制”に賛成していた。後に見るようにロベール・ユーも同様の立場のようである。

H－国際協力

カレはイギリスのドーバー、ドイツのデュイスブルク、トーゴのロメ、ロシアのベルディエフと姉妹都市協定を行っているということである。交流はスポーツと文化に関するものであるが、エナン市長は“人間的近接交流”という事実としてのデモクラシーに有用であるとしている。

II－2－④ バポーム (2003年9月22日17:07～18:22)

◎バポーム小史

ノール・パ・ドゥ・カレ州、パ・ドゥ・カレ県のバポームは、海拔122メートルに576ヘクタールの土地、4,725人の人口を有する小コミューンである。古くは1115年に、“Baet Palmae”と呼ばれた。幾つかの道路の交差点となる重要な土地であった。1415年から1641年にかけて6回の包囲を受けた。1664年にレコレ修道院、1765年に砲兵学校が創設された。1871年1月2～3日に有名なバポームの戦いが起こった。町は1917年完全に破壊された。現在、刑務所があり、4,725人の人口中600人が囚人である。(フランスの刑務所数：185、公式収容人員45,660、現収用人員：56,957。

<http://www.quid.fr/communes.html?mode=detail&id=26579&req=bapaume&style=fiche>

<http://www.kcl.ac.uk/depsta/rel/icps/home.html>。監獄の収容種別は不明。

参考：政治刑：<http://www.chez.com/duzodu/prizonidi.htm>、
http://www.prison.eu.org/article.php3?id_article=3580
バポームについては、<http://www.liberation.fr/imprimer.php?Article=234448>、<http://www.secoursrouge.org/secoursrouge/compterendubapaume.htm>、<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsce/db1990/9400fm04.htm>)

◎デュズ市長 Anne Duez

デュズ婦人は、前市長のジャン・ポール・ドウルヴォア氏が公職・国家改革・国土開発大臣に任命されたのを受けて、2002年5月に第1助役から市長となった。なおドウルヴォア氏はフランス市長会の会長(1992-2002)を務め、1996年に筆者が行った書面アンケートに会長としての推薦状を作ってくれた経緯がある。

◎回答概要

A－選挙

デュズ市長は、ドウルヴォア氏のポストの代わりについているため、直接に選挙については語らなかった。リストの2番目にいたことであるから、客観的に語ることも出来たであろうが控えたのであろう。彼女自身は1972年から市議会議員を続けていたということである。ドウルヴォア氏は1982年にアンリ・ギデ元市長の死去にともない市長になって以後、継続していたということである。

コミューン議会は27人の議員からなり、4人が野党にあるというが、前回の選挙では野党は1リストであったということである。

B－パリテ

デュズ女史はパリテ法が間違いだったと批判したが、展開されなかった。実態では、与党内では男性が11人、女性が12人であり、問題はなかったという。他方で、女性は時間の利用に関して、(仕事、育児、家事で多くの役割を果たし) 困難を抱えているという。

バポームで議員に関して抱えているのは、彼らの高齢化であり、新旧交替を考えねばならないということである。

他の選挙任務では、法によるのではなく、レッセ・フェールにす

べきだと主張する。

C－近隣民主主義

バポーム (人口 4,725 人) は、近隣民主主義法の適用 (人口 8 万人以上もしくは 2 万人以上 LOI n° 2002-276 du 27 février 2002 relative à la démocratie de proximité (1)3-II.) の対象外である。

D－財政

経常経費が予算の 42% を占め、その支出が限界点にあるとのことである。“CES が大幅に削減 (削除) され、心配の種” だとデュズ女史は告白する。(筆者注: CES は若者のための雇用対策で、ジョスパン政府により創設された。採用時に振り落とされたり、学歴・資格のない若者の雇用確保を行うもので、5 年後の採用予定を含めて、準備－研修期間－有給として受け入れられることである。ところが、ラファラン政府の下でこの雇用対策が削減・削除される決定がなされた。多くのコミューンが、経費節減になることからこの対策を取り入れていた。)

M14 に関して、それが企業と同じ会計方法を導入するものだという言及しかなかった。

E－組合、都市圏共同組合

バポームはアラスと連携して家庭ごみ収集混合組合を形成しており、収集されたごみの搬出は 3 コミュンからなるコミューン共同体の担当となっているとのことである。デュズ女史は、それ (そのようなシステム?) を確立するのが難しかったと言っている。

環境に関しては、“田園地帯であり” 問題ないということである。これに関わって、昔は 3,300 人の学生がバポームにある学校に通っていたというが、有名な農業学校である lycée agricole Saint-Eloi や lycée professionnel のことのようなのである。農業に関して、ブルターニュで大きな問題となった問題の起るのを警戒しているようである。

F－安全

デュズ女史は、バポームには刑務所への訪問者との関係で安全に

関する問題があると言うが、具体的には示さなかった。訪問者は町の住民と比べれば、別種の人間ということであろうか。前記のように、刑務所には600人の受刑者がいるが、男性が500人、女性が100人ということである。このシャランドン *Chalendon* (ジスカールデスタン大統領のときの元法務大臣) 刑務所は“半官半民”の“禁固刑刑務所”であるというが、内容不明である。

G—デモクラシーの将来

デュズ市長はコミュン共同体を構成する3つの町に触れて、“コミュン共同体がデモクラシーを推進する”と続けている。先の選挙に関して、彼女は、“共和国の救済”が問題となっていたと言っているが、これは、シラクがル・ペンに対抗して大統領に選ばれたことを皮肉っているのだろうか。なお、本来のバポームの市長であるドゥルヴォア氏は、シラクの秘蔵っ子の1人である。“しかし、左派と右派の対立はなかった”と彼女は断定する。彼女のこの言葉から察せられるのは、それが政治的討議を刈り取ってしまうということであろうか。これについて女史は“危険な状況である”と断言している。これは、選挙時に多くのフランス人が感じたことの、彼女なりの表現かもしれない。これに対する反発によるものかどうかここでは断定できないが、第2回投票でシラクはほぼ81%の票を得た。

H—国際協力

バポームはドイツのMOERSとスコットランドのAUS-TRUTHERと交流しているとのことである。交流内容は学校単位で、2年おきに交互に行う“文化・スポーツ”に関することだけであるという。

付随—

インタビュー終了間際デュズ市長は、“市議会に誰も傍聴に来ない”と失望気味に話し、また“社会的支援(費用)”がコミュン財政には重いものであると告白している。“もろもろの社会的支給”が負担となっているというのである。彼女はまた、バポームでは“延べ3,000人”が様々なアソシエーションに参加し、1,000人がヴォラン

ティア活動をしていると紹介している。フランスではこのような協会がここ 20 年ほどの間に発展しているということである。

II-2-⑤ パリ 2 区 (2003 年 8 月 26 日 10:37~12:17)

◎パリ 2 区小史

パリ 2 区は 17 世紀から 18 世紀以来の Petits-Champs、Danielle Casanova、Capucines、les Grands Boulevards、そして 19 世紀からの rue Etienne Marcel、Boulevard de Sébastopol といった幾つかの道路により仕切られている。パリ 2 区の活動、その住民、その建物は、この時代を通じてのパリの歴史の特徴と胎動およびその建築技術の特別な表現である。

2 区の南東は 1634 年以後、シャルル 5 世の建設した囲いの場所に通じた Aboukir、Cléry、Mail の各道路に連絡している。2 区には今なお、法服貴族や帯剣貴族、徴税人、王の役人、ブルジョア商人、芸術家、建築家によって住まわれた多くの住居が残っている。1739 年にジャン・バプティスト・ヴォートランによりヴァタール未亡人のために建てられたクレリー通り 31 番の館、さらに徴税長官ルーセルが居住したアブーキル通り 71 番の館もある。この調和の取れた纏まりの質を生み出しているのは、それが古いパリの独特な側面を保持している数々の民衆の家並みと結びついているからである。これが同じ街区に様々な社会的カテゴリーを共存させたのである。

サン・ドニ通りの豪華な町並みは数多くの宗教的建造物で飾られている。サン・ソーヴール教会、トリニテ病院、サン・ショーモン修道院などである。サン・ドニ通りとモンマルトル通りの間に劇場がある。“情感の仲間”が、ブルゴーニュホテルに定着する前、始めにトリニテ病院の広間に舞台を構え、イタリアコメディがそこに創設される前、17 世紀を通じてその成功を収めた。多くのコメディアンが、サン・ソーヴール教会に出入りした。ゴルドニがサン・ソーヴール通り、デュスーブ通りの端で暮らし死んだ。ラシェルがそのデビューをモンマルトル通りのモリエール劇場で果たしたのは偶然

ではない。続いて、ヴァリエテ劇場、ミショディエール、ポティニエール、パリ喜歌劇団がその伝統を受け継いだ。

北西では、ヴィヴィアンヌ通りとリシュリュエ通りのあたりで、1630年に新しい地区が開かれた。ルーヴルやパレ・ロワイヤルの隣にあることが大王国の従者たちがそこに居住したことを説明している。マザラン、フーケ、コルベールらが館を建造したり、居住したが、今日残っているのは僅かな面影である。1685年から1689年に設置された勝利の広場はこの地区の王の任務に使われた。

18世紀になって、1670年に開かれた道路の近くで、貴重な住居が建てられた。ユゼ、グラモン、ショアスールなどであるが、ポワソニエール大通り23番にあり、ローマのスフロにより建造されたモントロンホテルが唯一現存している。同じ時期に良質な人士が幾つかの街路に暮らしていた。

19世紀はじめ、大通りが“はやり”の場所となり、取引所が金融や銀行に関わる人々をひきつけたとき、新しいタイプの都市計画が進んだ。アーケード街の出現である。1799年に女子修道院の移転後、はじめに建てられたのがケールのアーケードである。同時期に微妙な差異が生まれた。区域の半分は西洋風で、カフェ、劇場、有名なレストランが増え、他方で金融や商業が栄えた。東部では食品業者、小商業者、さらに出版業者が加わった。出版業者は勝利のノートルダム通りとサンティエ通りの間で19世紀末に栄えた。同時期に、パリ市の建物のファサードコンクールにより繰り返し賞を受けている、オスマン以後の豪華で特徴のある驚異的な建築物が並んでいるレオミュール通りが開かれた。1900年にモンタルナールにより建設された118番地の建物は完璧で、石と鋳物とガラスを組み合わせている。

こうして、2区はずっと多様な環境と活動の多様性と共存により特徴付けられるのである。そこには、トゥーリスティックに力をいれている別の区に比べて余り知られていないが、大変豊かな遺産があるのである。Jean-Louis BOSCARDIN

http://www.mairie2.paris.fr/mairie2/jsp/Portail.jsp?id_page=47

◎ブトー市長 Jacques Boutault

1961 年生まれのブトー氏は緑の党に所属する新任の市長で、パリ市議会議員を兼任している。職業はジャーナリストということである。2 区のホームページ (パリ市議会の議員紹介欄) に自己紹介があるので、抜き出すことにする。

“自分の生きている世界にある不正により立腹させられ、地球の略奪と第 3 世界の収奪に憤慨させられて、政治に関心を抱き始めたのは 16 歳の時であった。後に 1995 年になって、ごく自然にドミニック・ヴォアネに注目するようになった。1997 年 1 月に、パリでの生活諸条件の改善に向けた都市でのエコロジーを推進するために、共同活動に参加し、地域で政治に取り組もうという意欲を持って緑の党に入党した。

情報とコミュニケーションの高等研究学院 (Celsa Paris IV-Sorbonne) で DES を修得し、10 年間社会情報のジャーナリストとして活動してきた。現在もパートタイムで、社会保護の男女平等の組織の中で、情報担当責任者として仕事をしている。私は、1 人の議員が労働の世界とかかわりを持ち、従って別の活動に平行して従事するのが望ましいと判断している。私はまた、Que-sais-je で失業保険に関する著書を出している (Unédic-Assédict)。

1961 年に Gennevilliers で生まれ、2 歳から 10 区で成長した。ついで 17 歳にパリを離れ、1994 年 3 月にパリの中心部に戻るまで、ナンテールに暮らした。現在サンティエ通りに住んでいる。2 人の子供は地区の公立学校で学んでいる。

1996 年に 2 区で“よく生きる”協会を設立した。自分たちの生活諸条件が改善されるのを見たいと望む住民を組織し、協会は過剰な自動車とトラックの被害を抑制する戦いのための提案を行った。この協会はまた、コミュン内の住宅並びに子供スペースに関する議論を主導した。

私がコミュン選挙に出馬したのは、これらの考察と協会内で表明

された期待を具体的なものにしていくという意欲に強くもとづくものである。

社会党と緑の党との合意に続いて、2001年4月に市長に選ばれ、以来この任務についている。多数派の左派議員とともに、区の生活に住民が参加するようにし、生活の質と環境を改善し、貧困者問題の解決をしやすくするために働いている。要するに私は、日常生活におけるエコロジーを実現するよう努めているのである。”

http://www.mairie2.paris.fr/mairie2/jsp/Portail.jsp?id_page=269

以上がブトー市長の自己紹介の抜粋であるが、氏の属する緑の党の問題関心を、他のインターネット情報などから拾えば、雇用、反核、自然保護、第3世界、反戦、遺伝子組替え、同性結婚、住環境、教育などが見られる。 <http://lesverts.fr/>、

http://lesvertsparis.org/article.php3?id_article=743、

<http://www.lexpress.fr/info/societe/dossier/homos/dossier.asp?ida=427196>

◎回答概要

応対は、ブトー氏と市長室長のジャン-ピエール・ジロー氏であった。これに関して協力者のファヴロー氏は次のように言っている。〈パリ2区では、市長室長が市長よりずっと年嵩が高く、あまり見られない事例である。彼は、助手であるよりも助言的な監督者に見えた。この室長が緑の党の所属であれば、彼が市長を党の方針から逸脱しないように、また、例えば社会党系だとすれば、そちらからの制約をしているのかもしれない。いずれにせよ選挙の経緯からしてこのような結果になったのではないか。〉

A-選挙

右派の側が分散し、5リストが選挙に臨んだということである。RPR、UDF、FNの2リスト、前市長タファン女史(元国防大臣ミヨン氏の系列)のリストがあったという。協力者のファヴロー氏によれば、リヨンでの県議会議員の選挙の際、ミヨン氏が県議会議長

になるために FN と連携し、そのことが原因で同氏が UDF を離れたとのうわさが立ったということである。また、このような彼の行動について多くの人が話題にしていたということである。これに対して、左派は PS、PC、DMC のリスト、極左のリストに加えて緑のリストがあったという。第 1 回選挙では、左派全体で 50% 強、そして緑が 17% を得たという。第 2 回投票の前に、ドラノエ氏との間で調停協約がなされたとのことである。パリ全体に対して表明された緑の提案のおかげで、首都の中の 1 つの市区に緑の市長がいるのは良いことで、そのようなものとして、左翼のリストが、それぞれのスコアにも拘らず、ブトー氏を有利にするために、2 区において退かなければならなかったのであろう。この点についてファヴロー氏は次のように指摘している。〈これこそ、“政治取引”を示す事例である。この取引は、一地域内の単一選挙で行われる場合もあれば、複数の地域や選挙種類にわたって交わされる場合もある。前者は、共同リストの作成という、いわゆる、共同もしくは連携と言うべきで、狭義には、後者のように、複数の自治体間もしくはコミュン選挙と県選挙のレベル間で、近い立場の政党間で票のやり取りをすることと解すべきであろう。特にフランスのように、各層選挙で名簿式 2 回投票制を用いていることから、起こりやすい事項である。〉この点は、ここでは踏み込んだ考察は出来ない。

ブトー氏は、“緑は 1 つのドグマを持って機能している独立の勢力であり”、他の考慮よりも、“この勢力が、人間を優先する”と断定する。彼はまた、ローマクラブ以後、“物質主義の誤った道が出来てしまった”と指摘している。ブトー氏は、“希望のない選挙キャンペーンを行った”と言っているが、第 2 回投票での PS と PC との協力可能性のことを指しているのであろう。PS、PC と緑との“政治取引”がなければ、第 1 回投票で左派第 2 位のブトー氏の勝利はありえなかったであろう。通常は、32% 弱を得た社会党の筆頭候補が市長になるはずである。選挙上は、社会党の Schapira 氏を筆頭とするリストがタファン女史のリストを凌ぎ勝利したが、第 2 回投票前のパリ

市長を中心とする約束によりブトー氏が市長となった。なお、この部分で、ブトー氏は“政治取引”というよりは、政治理念にもとづく“政治協定”であることを強調していた。<http://ipj.free.fr/paris/vertsIIe.htm>

ブトー氏は、2区の選挙資金の上限が3万6,000ユーロに上がったこと、あるいは規定上、1選挙人あたり0.6ユーロになっていることを困難な問題としていた。2区の人口は2万人強で、この2つの数字には不明な面が残る。ブトー氏の側では協力者の活動が積極的で、ビラや選挙事務所借用費などに1万8,000ユーロで済ませたという。選挙費用に関する法制度は、選挙法典52条4～18に規程されているが、詳細についてはここでは踏み込めない。

B－パリテ

ブトー氏は、“パリテを実現するには他の道はなかった”と言う。緑の党には33%の女性がおおり、執行部では、50%が女性であると言う。政治での平等を望んでいることを強調していた。ブトー氏はまた、“リスト選挙”について語っていた。問題としたのは、パリテに達するためには、別の選挙においても改善策を求めなければならないということだが、具体的な方策については触れられなかった。

C－近隣民主主義

ブトー市長は“外国市民の第1次的な会合”が開かれなければならないと指摘する。パリ2区には、“地区議会憲章があり、誰もが候補者になることが出来、抽選により、男女別々に選ばれる”ということである。“12人のメンバーからなる住民議会があるが、うち6人は市長により任命され、うち3人は議員で、うち1人は野党議員である。後ろのメンバー（議員メンバー）は投票権を持たない。”“彼らは司会者となり、議長は住民になる。”2区には、3つの地区があり、“小額の経常費と事業費”を持っている。“地区議会は区全体の投資経費の予算方針についての相談を求められる。”“地区議会は提案を行うために委員会を組織する。”アロンディスマンのために、市長はパリ市

の助役と、学校以外の投資的経費について協議する。地区議会はパリテ方式で形成されているという。ブトー氏は、“パリテによる女性の出現がデモクラシーの良い学校” となるというのである。地区議会憲章が以下の 2 区のホームページにあるが、ここでは触れない。
http://www.paris.fr/fr/citoyennete/citoyennete_democratie_locale/conseils_quartiers.ASP

E－組合・共同体

組合は存在せず、異なるセクターの様々な事業部がある。

F－安全・環境

サンティエ地区の安全に関する心配があるというが、詳しくは伝えられなかった。小さな麻薬取引や売春のことであろうか。

G－デモクラシーの将来

ブトー市長は“退職がなく、研修がなく、任期後保証がなく、新たに職を探す難しさがあるため、議員の地位について” 検討しなければならないと言う。そこでブトー市長は、再就職の難しさから、“議員たちが彼らのポストに固執する” ことを是認するのである。

ブトー氏の言うとおりに、法制度上議員の地位が多くの問題を含んでいることは頷けるが、実態上は中規模都市以上の市議会リスト筆頭者の生活については、例えば古くからある政党では、政党が支援する場合も多いであろうから、単純ではないであろう。他方で、緑の党のような新しい小政党の場合、当然困難は大きいと察し得る。いずれにせよこれは、選挙制度（職業活動と立候補方式および議員活動）、職業政治家問題、議員職兼任問題にからみ、大きな論点であるので、ここでは触れられない。また、ファヴロー氏が指摘するように、このような議員たちの生活、職業上の諸困難にも拘らず、職業的政治活動への意欲が持続するのは、政治参加者の心理的欲求があるのでであろう。理念追求、権力掌握、影響力行使など。ともあれ、小都市の多くでは、いまも、退職者、農業従事者、男性が市長職を担っているのである。<http://ipj.free.fr/dossier/profilmaire.htm>

他方で、ブトー氏は“市民意識を目覚めさせなければならない”

という。パリのドラノエ市長が“間コミュン担当の助役を置いたが、その仕事は首都に接する郊外のコミュンとの調和を図ること”だということである。ドラノエ市長はまた、区の市長（区長）に、“より大きな権限を与え、その結果市長たちは、幼稚園、小学校、公園、体育館、図書館に関して、僅かながら投資的予算を備えるようになった”ということである。これはまた、“区内で、市民と市長の距離を近づけることに”貢献したというのがブトー氏の観察である。

ブトー氏はまた、地区議会に戻り、“住民が個々の諸問題に直面し、集合的な解決策を共有している”と指摘した。

ブトー氏はまた、2区では、“極右は、右派の中に溶け込んでいる”というが、これが、極右の2つのリストが競い合ったが、ともに1.5%、0.93%と低得票であったことをさしているのか不明である。

“国の権限は、人間の基本的欲求である健康、教育、環境に配慮すべきであり、”また“警察、軍隊、司法”の機能に自己限定しなければならない、というのがブトー氏の主張である。

H－国際協調

ブトー氏は、国際交流が重要であると言うが、その際、“平等な交渉”を図ることが必要だと言う。その意味は、富んだ国に対してより、貧しい国に対してより良い扱いをするという発想のようだが、具体的には示されなかった。緑の党の方針であろうか。この点に関して、11月9～10日に Bourse で国際コロックを開くということであった。

II－2－⑥ サン・ドニ（2003年8月27日15：13～15：48）

◎サン・ドニ小史

250年頃：フランス司教ドニの殉教

475：ジュヌヴィエーヴが最初の聖堂を建設（サン・ドニ聖堂）

639：ダゴベール死去

987：前サン・ドニ司祭ユグ・カペがフランス王に選ばれる

997：サン・ドニ聖堂でのユグ・カペの埋葬

- 11 世紀：ランディ定期市の開始
- 1130-1144：スュガール聖堂の建設
- 1593：アンリ 4 世が聖堂で宣誓
- 1770：ルイ 15 世の王女ルーズがサン・ドニのカルメル修道院に入る
- 1793/10/21：国民公会のデクレが聖堂を再聖別
- 1824：サン・ドニ運河への通水
- 1843：鉄道連絡
- 1892：最初の社会党市長
- 1899：ランディでのガスタンの設置
- 1920/2/1：社会党祭りに新聞が“赤い町”と呼ぶ
- 1931：12/1：共産党のジャック・ドリオ市長誕生
- 1934：ドリオが仏共産党から除名され、1936 年にフランス国民党を創設
- 1936：人民戦線がサン・ドニで 15,000 人のストライキを組織
- 1944/8/18-26：サン・ドニ解放闘争
- 1945：サン・ドニ選出のフェルナン・グルニエがド・ゴール政府に入閣
- 1946-1949：ランジュヴァンに最初の HLM 地区建設
- 1969：サン・ドニ祭の開始
- 1970：フラン・モアサンのスラム街の解消
- 1976：市中心部への地下鉄開通、ドラフォンテーヌ病院の開設
- 1979：市中心部再開発開始
- 1980：パリ第 8 大学のヴァンセンヌからサン・ドニへの移管
- 1984：国際陸上会議の第 1 回目の開催
- 1986：聖堂周辺商業センターの創設
- 1992：トラムウエーの敷設
- 1993：フランス国立競技場誘致の合意成立
- 1991-2004：ブラウゼック市長 (国民議会議員 2002-)
- 1998：プレーヌ地区での A 1 高速道路のカヴァー設置、RER の 2

つの駅の開設

1998/1/28：フランス国立競技場の開設、6～7月世界サッカー大会開催

2000/1/1：サン・ドニを中心とする5市が都市共同体を設置

2001：ブラウゼック市長3選

2003：9月世界陸上競技大会開催

2004/12/11：ディディエ・ペヤール Didier Paillard 氏が市長を継ぐ

<http://www.ville-saint-denis.fr/saint-denis/histoire/reperes.htm>

◎市長が、インタビュー予定日時に、急遽、世界陸上の受け入れ側市長として対応せざるを得ないとのことで、シャリエ婦人 (madame Odile Charrier, directeur des finances de la ville) との財政一般と M14 に関する質問だけとなった。そこで、以下にサンドニでの選挙結果等を ipsos などから、また、選挙法典から議員配分の方式を、さらにサンドニ市のホームページの構成、そこに見る市の概要を紹介しよう。

パトリック・ブラウゼック市長は1950年にパリで生まれ、1971年から1990年までサンドニで教師を務めた。1983年に共産党のリストで市議会議員となり、1991年まで коммуニストグループの責任者であった。1987年に文化担当の助役となり、1991年に市長、1993年に国民議会議員となった。

◎選挙

・選挙

〈平和なサン・ドニ？それが、ともあれ、アンケートの結果を検討しながら、信じ得ることである。リベラシオンのために Ipsos が行った質問に対して、サン・ドニの選挙民は彼らの町に比較的良い印象を抱いていることを告げている。3分の2が生活の質に満足していると答えている。これは、トゥーロンで先月行われたアンケート結果と類似するものである。質問された10人中2人近くが、どんな理由であれ、サン・ドニを離れないということである。反対に、質問

されたうちの半分以上が、“いつか”ここを離れるのは、“あり得ること”と答え、10人中3人近くが、ここを去るのが、“早ければ早い方が良い”としている。いずれにせよ、質問された者は、サン・ドニから(パリ州の別の地区に移りたいのが25%)というよりもむしろパリ州から出るために(パリ州以外に移りたいが53%)、サン・ドニから離れたいとしているのである。

1998年に建設された国立競技場、そして特にワールドカップサッカーが、町の標章に再び箔をつけることに貢献したことを疑う者はいない。質問された者のうち3分の2が“フランスおよび外国での町のイメージはこの5年の間に改善された(65%)”と言う。非常に多くの者(70%)が、スポーツ団体がこの時期に豊かになったとし、また、“事物が交通の分野”で改善し(58%)、“協会活動の発展”(51%)、“文化活動”(58%)すなわち“サービスと商業”の面において改善されたと評価しているのである。質問された者の中には、反対に“雇用と経済的発展”(40%が状況は改善されたと評価しているが、同じ割合の人がなんら変わっていないと判断している)、住宅(40%が改善、39%が現状のまま)、“排除および貧困への対策活動”(43%の“何も変化なし”に対して39%が改善)の改善について慎重なままである。選挙民の多数派によれば、“個人と財産の安全”はこの5年間にむしろ悪化していることになる。(43%が事項に関して状況が悪化している、37%が何も変わっていない、19%が良くなっているとしている。)

サン・ドニでは、人は現在、経済状況の将来を信頼している。(53%が信頼、46%が不安)楽観主義がトゥーロンより顕著であるが、トゥールーズやリールより僅かに低い。前市長パトリック・ブラウゼクは多数の支持を受けている。過去の選挙以後達成された事業は、質問された者の71%を満足させている。共産党の市長は、右派に共感する者の多数を納得させる成果を示した。(62%が満足、36%が不満)さらにブラウゼク氏が64%の支持を以って、サン・ドニの大使はと質問された者によって描かれた町の名士の筆頭者となった。彼

は、名簿の2位になったボクサーであるファブリス・ティオツゾ(31%)に2倍、そして3番目で23%のラップグループNTMをさらに大きく離している。

パトリック・ブラウゼクは2001年の次回選挙を乗り切るのに最も良い立場にいる。実に10人中6人近くが(反対派の勝利については31%) 今回の選挙で“現在の与党が勝利する”ことを望んでいる。彼が選ばれれば、左派と同様右派によっても“学校”(30%)の前に、第1の課題(49%)とされている“安全の問題”に取り組まなければならないであろう。右派は3番目に“託児所”(31%)を挙げているが、左派に近い人は、不便な地区に関わる諸問題の解決を緊急なものとしている(29%)。いずれにせよサン・ドニの90,000人の住民(そのうち40%は20歳未満で、30%は外国人)は、彼らの現在の市長に期待している。> philippe.hubert@ipsos.com

<http://www.ipsos.fr/municipales2001/sommaire.htm>

・議席

コミューン議会での議席配分の原則と適用はどのようになるのだろうか。初めに法に基づく概要を紹介し、サン・ドニでの適用を紹介する。

3,500人以上のコミューン(全国で約2,000コミューン)についての規定。投票方法の特徴は以下のごとくである(選挙法典L260条以下、特に議席配分についてはL.262条)。

コミューンは単一の選挙区を構成する。これは、(パリのような大都市での)選挙セクションへの分割を排除するものではない。(選挙法典L254条)市議会議員選挙は2回投票制で行われる。(完全リスト制、非政党混合制、非優先当選制、パリテ制—憲法1条、選挙法典L264条)

議席の配分は、第1回投票後では比例制と多数制の混合方式で決められる。

〈第1回投票のあとで、有効投票の絶対多数を獲得したリストには、残りが4議席以上の場合端数を切り上げ、また4議席未満の場合

合端数を切り捨てて、定められた議席数の半分に等しい議席が割り当てられる。この割り当ての後、残る議席は、後の第 3 段落での規定を留保して、厳格な平均の原則に立って、比例代表的に配分される。

もしどのリストも第 1 回投票で絶対多数を得なかった場合、第 2 回投票が行われる。最大の票を得たリストには、残りが 4 議席以上の場合端数を切り上げ、また 4 議席未満の場合端数を切り捨てて、定められた議席数の半分に等しい議席が割り当てられる。第 1 位になったリストリストの間で得票が等しい場合は、平均して最も高い年齢にあるリストに、これらの議席が当てられる。この割り当ての後、残る議席は、後の第 3 段落での規定を留保して、厳格な平均の原則に立って、比例代表的に配分される。

5%の得票を得なかったリストは、議席配分に関わりえない。

議席は、各リストの掲載順序内の候補者に割り当てられる。もし複数のリストが最後の議席の配分に当たって同じ条件であれば、この議席は最大の得票を得たリストに属す。得票が同じ場合、その議席は議員になることが想定されている候補者のうち年齢の高い者に属す。>

Article L262

Loi no 82-974 du 19 novembre 1982 art. 4 Journal Officiel du 20 novembre 1982 date d'entrée en vigueur 13 MARS 1983

以上の規定にもとづき、サン・ドニでの選挙結果により次のような議席配分になっている。サン・ドニ市議会の議員定数が 53 人であるので、初めにブラウゼク氏のリストが 26 人プラス 1 人で 27 人を獲得する。次の 26 人について、次のように各リストの議席が決まる。クロードヌ氏のリストとクリスチャン氏のリストは 5%の得票に達しなかったため、議席配分から排除される。残る 5 リストの得票総数は 1 万 3,143 票なので、これを 26 で割ると、505 が残る議席配分の基礎数となる。各リストの得票数を 505 で割ると、LO : 1.679、LCR : 1.489、G.pl : 14.766、Un.D : 3.740、MNR : 4.350 で、それ

選挙結果

	Liste	Nombre de voix	Résultats 01(%) 1 tour	siège	Résultats 95(%) 1 tour
Julien Philippe	LO	848	6,02	1	3,31
Bourcquin Jean-Marc	LCR	752	5,34	1	2,63
Chevreau Claudine	PT	332	2,35	—	1,42
Braouezec Patrick	G. pl.	7 457	52,99	43	46,24
Nicol Evelyne	Un. d.	1 889	13,42	4	13,88
Galvaire Jean-François	MNR	2 197	15,61	4	FN:24,42
Trigory Christian	div.	596	4,23	—	—

<http://www.ipsos.fr/municipales2001/sommaire.htm> を加工

ぞれ1、1、14、3、4の議席を得るが、3議席が残る。そのうち1議席目は端数の最も多いG.plが、2議席目はUn.Dが得て、最後の1議席をG.plが獲得する。結果、LO:1議席、LCR:1議席、G.pl:27+16=43議席、Un.D:3+1=4議席、MNR:4議席となる。

http://216.239.57.104/search?q=cache:-YfL3QHIme0J:www.colloc.minefi.gouv.fr/colo_struct_gest_loca/vie_elus/cons_muni.html+repartition+de+siège+conseil+municipal&hl=fr

<http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/VisuArticleCode;jsessionid=B7O3nrNcF32EqNuBSVgdclTbfzHqjtok6MnQzKrhT831lsSAkfx1!-647448780!iwsspad4.legifrance.tours.ort.fr!10038!-1!573649478!iwsspad6.legifrance.tours.ort.fr!10038!-1?commun=&code=&h0=CELECTOL.rcv&h1=1&h3=60>

LOI constitutionnelle no 99-569 du 8 juillet 1999 relative à l'égalité entre les femmes et les hommes (1) NOR: JUSX9800069L: Article 1er,

<http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/UnTexteDeJorf?numjo=JUSX9800069L>

<http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/VisuArticleCode;jsessionid=B7O3nrNcF32EqNuBSVgdclTbfzHqjtok6MnQzKrhT>

8311sSAkfx1!-647448780!iwsspad4.legifrance.tours.ort.fr!10038!-1!
573649478!iwsspad6.legifrance.tours.ort.fr!10038!-1?commun=&
code=&h0=CELECTOL.rcv&h1=1&h3=60

LOI no 2000-493 du 6 juin 2000 tendant à favoriser l'égal accès des
femmes et des hommes aux mandats électoraux et fonctions
électives (1) NOR: INTX9900134L.

L'Assemblée nationale et le Sénat ont délibéré, TITRE Ier.
DISPOSITIONS RELATIVES AUX ELECTIONS SE DER-
OULANT AU SCRUTIN DE LISTE .Article 2

[http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/UnTexteDeJorf?
numjo=INTX9900134L](http://www.legifrance.gouv.fr/WAspad/UnTexteDeJorf?numjo=INTX9900134L)

・サンドニのホームページ

ここでは、フランスの自治体におけるホームページの活用状況に
ついて考察することが目的ではないので、はじめに最小限の参考にと
どめ、サン・ドニを主に紹介する。

はじめに大都市の事例として、グルノーブルはローヌ・アルプ州
イゼール県の主邑で 156,200 人の人口を有する。科学技術に関する
5 つの国立研究機関があり、INRIA (国立情報およびオートメイ
ション工学研究院) はその 1 つで、金属工業や先端技術関連企業の
所在地としても知られている。

ホームページでは、市役所、国際、環境、市民、経済、都市計画、
スポーツ、教育、文化、連帯、移動、発見の 12 項目が主項目に置か
れ、ホームページ構成などに関連して、検索、コンタクト、サイト
構成、日誌、広報、協会、サイトプランとアドレス、セクター (地
区)、E-サービス、新聞発表がある。また、トップページには、
第 1 枠に主要更新事項の概要 (詳細に進める)、第 2 枠にイメージ、
大事業、行事広告、テレックス、第 3 枠に 100% コーナーがあり、実
用、有用、オンライン、ウェブがあり有用項目がまとめられてい
る。

12 の主項目の詳細を見る。

市役所の項には、新規、市議会、地方財政、市予算、諸手続き、選挙、募集とコンクール、公共事業市場、業務組織が含まれている。選挙の項では、選挙人登録や代理選挙と直近の各種選挙結果が投票所毎に示されている。国際の項には、新規、グルノーブル、姉妹交流、国際連絡網、国際プログラム、グルノーブル国際館、各国施設（領事館）がある。環境の項には、新規、清掃とゴミ、公園、空気、水、エネルギー、騒音、衛生、災害、動物、永続発展がある。市民の項には、新規、南グルノーブル、地区諮問会議、外国人会議、協会活動がある。経済の項には、新規、技術革新、雇用と企業誘致、商業と手工業、活動ゾーンがある。都市計画には、新規、大事業、居住、都市計画、プラットフォーム、都市化委員会がある。スポーツの項には、新規、スポーツ振興、エリートスポーツクラブ、スポーツ・余暇団体、ヴァカンス、グルノーブルと山がある。教育の項には、新規、学校登録、学校関連活動、学校施設、学校給食、学期、学生の町グルノーブル、放送教育がある。文化の項は、新規、屋外・劇場芸術、プラスチック工芸・写真、オーディオと映画、文化遺産、書物・読み・書き、市文庫、支援と援助からなる。連帯の項には、新規、社会活動センター、社会センター、子供、年長者、不自由者、社会住宅、健康、緊急連絡がある。移動の項には、新規、グルノーブルへのアクセス、駐車場、屋内駐車場、公共交通、トラムウエー、自転車、都市圏移動プランがあり、発見の項は作成準備中である。以上市の政治、行政、経済、社会、居住、スポーツ、教育、文化などあらゆる情報が載せられている。なお、人口、産業別就業人口、年齢構成などの統計、市の歴史の項目などが無い。

ここでの紹介には直接関わらないが、地区議会が地区諮問会議と位置づけられている。

2番目に、ラングドック・ルーシヨン州、ピレネ・オリアンタル県の高地1,600メートルにある歴史的観光村、人口351人のモン・ルイ村のホームページを見てみよう。

モン・ルイ、歴史、訪問、散策、キャンプ、諸リンク、コンタク

トの項目で構成されている。モン・ルイの項には、トップ、紹介、有用情報、地理、コミユンの地図、観光案内所、宿泊施設、祝祭日程、ニュース、商業、学校、指揮官訓練センター、市役所、写真がある。歴史の項には、太陽王の町、ピレネ条約、ヴォーバンの町、王の風車、最初の太陽光高炉、絵葉書がある。訪問の項には、訪問ガイド、電話訪問ガイド、サン・ルイ教会、水汲み場、太陽光高炉、要塞、軍施設があり、周辺・散策の項には、町の近辺、ハイキング、名所がある。キャンプの項では、バールのキャンプ場が紹介され、リンクの項には、地域サイト、レジオンサイト、歴史サイト他がある。

最後にサン・ドニのホームページを見よう。サン・ドニは前記のように 90,000 人の人口を擁するパリ近郊の大都市であるだけでなく、現在は国立スタジアムを有する世界に知られた都市であり、また共産党支配の経過も、ウェブサイトに対応の反映がなされているだろうことが想定される。

サン・ドニのホームページは、2005 年 2 月 1 日付けで大幅な改善がなされ、まだ工事中の項目があるが、全体の構成や個々の内容の殆どが完成している。ここでは前記グルノーブルやモン・ルイの場合と同様項目を紹介するとどめるが、サイトプランのすべてを紹介する。

2－市役所とサービス

54－市役所サービス

55－市民、権利とその実現

56－子供、357－余暇センター、358－ヴァカンスセンター、356－
野外活動センター、359－おもちゃライブラリー

57－幼児、311－幼児の家、343－登録方法、344－独身母の支援

58－若者、313－若者支部、314－社会生活と市民性、315－芸術・
文化実践、316－若者諮問委員会

59－スポーツ

60－文化

- 61－教育、305－幼児教育および初等教育、322－幼児学校、323－初等学校、324－学校活動、325－中等教育、326－高等教育
- 62－健康、294－健康センター、264－健康の家、282－地区健康推進室、283－健康教育室、270－妊婦・乳児センター、275－保母、276－健康計画、295－子供の権利、279－家族計画・家族教育、296－訪問介護、262－病院・医院、263－アルコール・タバコ・ドラッグ、293－アルコール、268－タバコ、269－ドラッグ、297－精神健康、298－特別施設、299－エイズ予防室
- 63－社会活動、144－地域連帯計画、273－連帯の家、145－社会連帯の市サービス、146－受け入れ施設、272－市社会活動センター
- 64－ハンディキャップ
- 65－退職者、老人、291－訪問支援、292－暮らしと社会活動、290－会館と住宅
- 66－住宅、347－住宅援助、348－転出・転入、349－住居改修、350－改造・建設、360－サン・ドニ住宅、362－社会住宅入居、363－地区事務所
- 255－公共空間監視
- 67－広報、300－サン・ドニジャーナル、301－En Commun
- 68－新テクノロジー
- 173－地域研究、176－生活、174－人口、175－地域民主主義と市民、178－地域発展、179－公共活動、180－地域経済 181－セミナー、182－資料・出版
- 3－市民
- 11－市民登録
- 130－市議会、247－市長、252－市長日程、243－自由広場、391－共産党と賛同会派、392－社会党会派、393－緑会派、394－MRC 会派、395－LCR－LO 会派、396－UMP 会派、397－UDF 会派、222－コミュニケ、245－助役、251－市議会、1720 年以後の市長
- 13－地域活動、14－市民参加型予算編成、15－選挙、16－今日はお隣さん、17－静かな公共空間、82－正義と権利の法廷

18-国際関係、217-ヨーロッパの構築、230-若者交流、231-若者のためのフランス・ケベックオフィス、218-新しい南北関係の構築、232-マリ、233-ギディマハ・ジケ、234-フォアイエピネル、236-パリ 8 区、237-シュガル高校、235-フラテリニア카데미、219-平和の文化、220-世界におけるサン・ドニ、221-別の世界の可能性

4-協会活動

21-協会ガイド、374-旧軍人、375-健康・ハンディキャップ、376-賃貸者友好、377-健康、378-ダンス、379-政党、381-環境・生活、382-スポーツ、383-劇場、384-雇用・訓練、385-社会・文化、386-遺産、387-音楽、388-退職者・年長者、389-諸協会、390-社会教育、373-文化、380-地区委員会

5-文化

34-図書館・視聴覚館、26-映画、398-別の映画館、399-ゴモン、400-ユニヴェルシネ 8、33-文化カフェ、257-コンセルヴァトワール、256-サイバー基地、32-プラスチック芸術学校、27-サン・ドニ祭、28-ライン 13 (現代音楽)、29-芸術・歴史博物館、30-クリストフル博物館、37-金曜の夜、242-カフェとレストラン、25-ジェラルル・フィリップ劇場、35-考古学ユニット、240-考古学的宝物、241-歴史散歩、36-市文書

6-スポーツ

38-2012 年のパリ(オリンピック)支援、317-参加の理由、318-北の核、319-地域の遺産、260-日程

40-国立競技場、41-バレーヌ水上スポーツセンター、42-オーギュスト・ドゥ・ローヌスポーツ公園、43-ラケット、44-競輪場、45-ランディ競技場、46-マルヴィルスポーツ公園、47-小競技場、48-スポーツオフィス、49-市立スポーツ学校

7-企業・商業

51-企業、302-La MIEL、52-商業、310-有用アドレス、53-訓練と雇用、205-訓練・雇用の地域計画、206-IDF における雇

用情報、215-労働の世界

8-モニュメント (前記部分削除)

87-サン・ドニ大聖堂、97-その他のモニュメント、90-レジオン・ドヌール教育施設、95-アルバレトゥリエの家、91-〈ニーマイヤ〉屋敷、96-市役所、94-ユルスリヌ修道院、93-市場のホール

71-歴史

162-王の修道院、163-王の墓、164-ランディ市場、165-労働者街の誕生、166-産業時代、85-考古学的時代

73-大行事

106-人間はかく生きるか、112-ハーフマラソン、101-ブルーの郊外、104-読書の爆発、103-世界陸上、105-私もまた、108-チューリップ祭、107-サン・ドニフェスティヴァル、109-サン・ドニ祭、110-スピード自転車グランプリ、100-アフリカカラー、115-行事の思いで、116-アルジェリア年、214-解放60周年、202-ヨーロッパのサン・ドニ、203-世界スポーツフォーラム、111-国際陸上会議

74-大事業

151-市中心部、226-中心部の今後の変容、249-市中心部・生活中心部の改善、223-清潔と生活の質、224-商業施設、225-中心部の第3の基盤、152-プレイエル、153-パリの門、155-駅・合流点、156-クリスティノ・ガルシア、157-酒石ゾーン、228-国立競技場

76-経済

304-発展の準備、303-経済統計

77-プランと地図

160-サン・ドニの全体プラン、161-地区プラン

78-環境

127-緑地、259-サン・ドニ運河、258-レジオン・ドヌール公園、128-清潔、327-家庭ごみ収集、328-粗大ごみ収集と動物死骸、

329-ゴミ分別、330-清掃、331-ねずみ駆除、332-落書・違法
広告対策

79-観光事業

207-観光オフィス、210-グループ申込と切符、208-サン・ドニ、
209-トゥーリズム、211-サン・ドニの外へ

80-交通とパーキング

131-サン・ドニ紹介

132-ヨーロッパの十字路で、133-貴重な遺産、134-地域の経済
基地、135-環境のための切り札、136-社会的で連帯の町、137-
承認の伝統、138-民主主義と市民、139-学校と大学の潜在力、
140-ダイナミックな地域生活、141-スポーツに情熱のある町、
142-強い文化空間、143-世界の町

147-日誌

238-文化日誌、401-映画、365-音楽、367-サーカス、368-展
示会、369-訪問/会議、372-コント、363-読書、370-子供、
364-祭、366-劇場、371-壁の外、239-市民、253-市議会議事
402-テスト

75-住民と地区

167-14 地区、121-1999 年調査、212-新しいフォームの調査
216-コムンプレーヌ

227-コムンプレーヌの活動、229-共同体議会

333-永続する土地

340-市中心部の歩行者優先化、334-地域の環境基準、335-永続
性のある消費、336-エネルギー節約 HQE、337-環境評価、338-
連帯的経済、339-公正な取引、341-モール・リエーヴル氏への
インタビュー、342-リンクパートナー

以上である。

◎財政問題回答概要

サンドニは自治体会計方式の先進的自治体として知られている。

中西 一『フランスにおける行政評価—自治体管理会計—』 pp42

～www.jbaudit.go.jp/kanren/gar/japanese/article21to30/j27d03.pdf

公会計制度の改革については黒川保美『フランスにおける公会計制度の改革』

www.jbaudit.go.jp/kanren/gar/japanese/article21to30/j28d11.pdf

D-2-財政的自立

“権限移譲と並んで、財政的自立の優遇が展望されなければならない”ということである。オディル婦人はまた、“1982年に、市内の(国に所有権があった)歴史的遺産の市への移管”があったと言っているが、その財政的含意については展開されなかった。彼女はまた、“国の補助金が改定されたことにも目を向けている”と言うが、同様にどのような影響であるかについては不明である。ただ“財政問題が矛盾の状況におかれている”ということから、国の方針の不十分な点を捉えていることは頷き得る事である。

D-3-M14について

“問題はない”ということである。ほぼ6年前から始まっているこの新しい方式に馴染んできているということであった。

D-5-M14の一般的評価

国家と自治体に現在適用されているが、県や州に適用されるだろうということであった。

・M14に関する具体的テーマ

“M14に基づく変化は何ですか”という問に対して、“マニュアル(ソフトウェア)の変更”、“作業方式”、“サービスに対応する会計”であると言う。

“この新しい方式の良い面と不都合な面は何ですか”との問に対して、オディル婦人は、それが“私会計と公会計の接近”であり、“コミューン財産の計算を含んでいる”と述べる。彼女は、この会計計算方式が“政策を読み取りにくくしている”が“計算は簡単になっている”ということであるが、どのようにかについては展開されなかつ

た。

次に、“この新しい規定は銀行や企業との関係をとりにやすくなりましたか”との問に対して、“銀行や企業はそれらの独自の分析方法を用いているので、変わることはない”ということであった。

“住民の側からの情報提供の要請はありますか”との問に対しては、サン・ドニでは“住民が財政への関与を求められている”ということであった。また、この会計方式が“実際の時間”に対応するかについては、“そうは考えない”ということであった。他方で彼女はそれが、“行政会計と運営会計”の2つを含んでいると言うのである。これは、オディル婦人によれば、会計法での原則、“命令者と会計担当者の分離”の適用で、市当局—市長が支出と収入を命令し、財務部が支出・入金を行い、公会計部が会計担当であるということである。また、2つの会計帳簿が一致することが求められ、翌年の会計に先立ち前年の6月以前に市議会で採択されなければならない。この2つの帳簿は、市長の側の行政会計 *compte administratif, pour la comptabilité du maire* と公会計部の側の管理会計 *compte de gestion, pour la comptabilité du comptable public* と呼ばれる。また、減価償却に関しては、“これがすべての市財産、市役所、学校に関わるものではない”ということである。この方式はまた“日用品”の予測も含むものである。“購入予定の物品をまとめて購入する”ということは M 14 には関わらないが、2001年に改訂された公開市場法 *le code des marchés publics* に関するものだということである。彼女はこの点に関して、すべてのヨーロッパ諸国で同様の方法が採用されるべく、2004年に改正がなされるであろうということであった。

II-2-⑦ モンティニー・レ・コルメーユ

(2003年8月28日13:38~15:10)

◎モンティニー・レ・コルメーユ小史

9世紀にシャルル・マーニュによりサン・ドゥニの司教に譲られ

て、革命までその領地であった。瓦と漆喰の製造がローマ時代から存在し、コミュンに繁栄を齎し、モンティグニクム (火の山) と呼ばれ、丘の上に多くの竈が建てられた。1800年の人口は325人、1901年791人、1954年4,158人、1982年に13,752人で、現在17,330人となっている。

Robert Hue “Histoire de Montigny les Cormeilles” Librairie Nouvelle impression, 1986

http://www.quid.fr/communes.html?id=17842&mode=detail&emph=montigny%2C%20El_Emont_Eny%2C%20Cles%2C%20Cles%2C%20E8s%2C%20cormeilles%2C%20E9s&query=Montigny+-+les+-+CORMEILLES

◎ロベール・ユー市長 Robert Hue

ロベール・ユー氏は1946年、コルメーユ・アン・パリシスで生まれ、看護学校を卒業し看護師として働きながら、政治に興味を持ち、1963年にフランス共産党青年部に所属し、1987年に中央書記局に入った。婦人との間に2人の子を持つ。1990年に中央委員に選ばれ、1994年にジョルジュ・マルシェの後を受け書記長となった。1995年の大統領選では、共産党候補として最高の8.7%の票を得た。1997年にVal-d'Oise (5ème) 選出の国民議会議員に選ばれたが、2002年にはFNの票を加算させたUMPのモترون氏に僅差(15906/16150)で敗れた。他に県議会議員、州議会議員、ヨーロッパ議会議員の経歴もある。2001年11月に、ビュフェ女史 Marie George Buffet (サンドゥニ4区国民議会議員) がロベール・ユー氏に代わり共産党書記長となった。1977年以後5期連続してモンティニー・レ・コルメーユの市長を務めている。

http://www.radiofranceinternationale.fr/actu/chaude/images/imagesActu/France_elections2002/elections/r_hue.htm, <http://www.assemblee-nat.fr/elections/resultats/html/678>.

◎回答概要

A－選挙

ユー氏は、以前の選挙と特に変わった事はなく、共産党主導の左派連合と右派連合の2リストで、第1回投票で左派連合が58%の票を得たという事である。選挙は“非常に政治的であった”ということである。

主要な争点は、“安全と雇用”、それに“環境”であったという。大統領選挙では、この地区でユー氏が19%の票を得たが、市長選での得票に比べて大きな隔たりがあったことを添えている。ユー氏は、コルメーユで“中間的で、裕福な人口層”が増えてきているという。彼は、彼の長期政権に対しての“選挙の上での魅力の低下”があるのではないかと考えている。95年には、“PCの党首としての長年の任務により、自分の市から距離が出来ていたことによる批判が起こる危険性への一定の不安があった”と付け加えている。前記のように、ユー氏は国民議会選挙で49.8%の得票で敗れた。ユー氏はまた、“これまで上院議員を除くすべての選挙職を経験してきたが、兼職については2つの任務までに抑えてきた”と言い、それを超える兼任は妥当でないとしているが、一貫して市長職を基本にすえているようである。

B－パリテ

ユー市長は、“パリテは好ましいことであり、”パリテの推進を図るためには“法が必要であった”としている。共産党は女性の政治参加に長い伝統を持ち、現在も“上院では女性議員の割合の方が高い”ということである。コルメーユの市議会においても、パリテ法以前から、選挙リストでも、執行部でもパリテがとられ、彼の市長在任中の2つの任期では第1助役が女性であったという。他方でユー氏は、法は男女間の“社会的平等問題を解決出来ない”とも言う。“パリテは政治的要請であり、平等問題はより根源的だ”としている。困難は男女間の“社会内に現存する不平等から生じている”と言うのである。“女性は職業や家庭生活の拘束が大きく自由時間が

少なく”、”様々な場面での女性の地位の問題”もあるということである。一般的に、1968年5月大事変以後の民主化が女性の地位を高めたと言う。

コルメーユでは前記のごとく、ユー氏の最初の任期（1977年29歳）から、第1助役や財政担当助役、都市計画担当助役など重要なポストに女性がついてきた経緯もあり、女性をリクルートすることの困難性はなかったということである。女性の参加により、”彼女らの問題へのアプローチ、視点から、大きな利点”が見られるということである。政治参加については、”若者の参加”が課題であるということである。

他の水準でのパリテについては、”投票方式が整っておらず、””比例代表制”が必要であるということである。

C－近隣民主主義

人口からして、法の対象外であるが、PLUの中に”15の地区”があるということである。なお、PLUは以前のPOSに変わるもので、適用されるのは2006年以後である。ユー氏は、自分で”大きな事業を準備するための集会”を組織しているということである。この集会に参加するのは”自発的な参加者”か、それ以上に”協会関係者”であるという。

D－財政

ユー氏はドゥフェール法を問題にする。（ガストン・ドゥフェール：ミッテラン大統領の下、モロア政権の内務省を務め、82年法の改革－州改革を進めた。）ユー氏によれば、この改革が”権限と手段の乖離を齎した”と言うのである。これは多くの議員たちが指摘していることであると言う。

ユー氏は、”（一般税の）引き下げ”があったが、このことから、”地方税の引き上げ”が起こったということに注目する。ユー氏の考えでは、”職業税が企業の活動を計算していないので、有効ではない”ということである。職業税は企業の取引数にもとづいている。固定資産税に関しては、”その評価基準が存在していない”という。また、

住居税についても“妥当性を欠き、これについての改革も不十分である”としている。さらに、ユー氏は“財政上の分権化”を強く望み、“国の補助金の不足”を指摘し、“地方公共団体が危機に瀕している”と強調した。ユー氏は、“職業税を都市圏や複数のコミューンに移管したのは、コミューンを超える領域を作り危険である”と指摘する。“コミューンとの協調性のある分権化こそがチャンスとなる”と主張するのである。

M14 に間して、ユー氏は、それが会計の“透明性”を増す“優れた方式”だと評価している。また、2001 年の“公開市場に関する法律”が“市長の選択を狭め、“利権主義”に連なり、“議員にとっての危機”になると批判する。

E－組合と共同体

コルメーユの属する地域では、セーヌ・サン・ドニ県が清掃、水、電気の運営にあたり、交通についてはコミューン共同体が担当しているということである。ユー氏によれば、これらの運営がコミューン以外の機関で行われていることにより“コミューンの一体感が損なわれることはない”ということである。“大きな組合にともなう問題も起こりうる”と言うが、その 1 つは、“組合の活動が市民に明らかになりにくい”ことだと言う。他に、コミューン共同体を構成する 4 コミューンのうち 3 つが右派であると指摘していた。

F－安全と生活の質

ユー氏は他の市長たちが指摘しなかった諸問題に関して、“安全”というテーマで問題にした。“警察が有効に機能せず、安全に不安がある”と言うが、具体的には不明である。彼はまた、暴力などからの安全だけではなく、“交通上の安全、健康上の安全、雇用の不安、社会的支援の不安”をあげていた。これに関連して、“生活の安全を齎す公共機関の閉鎖、縮小”による生活の不安を語っている。これは、対象者が少ないことから、小さな町で、郵便局や社会保障関係の小さな事務所が政府の方針で閉鎖されることの問題を語っているのであるが、具体的な政府の方針などについては踏み込めない。

効率性の問題であろうが、別に見れば切り捨てる問題である。

この地域の主な環境問題としては“ロアシー（ドゴール空港）の飛行機の騒音”があるということである。

ユー氏は“公共サービス、人々を活気づけ、協会活動を活性化し、巷の教師の集まれる場所の開設”などで“予防的な政策”を希望している。ユー氏は“市警察”には反対し、それが、“国家の任務”であると考えている。あるいは、国家が警察業務から手を引けば、市警察の存在に同調するのかもしれないが、不明である。

G-デモクラシーの将来

ユー氏は、公共生活へのより多くの“市民参加”を望み、そのために“より一層の方式”を要するという。その1つとして、市民が“政策決定に参加する”仕組みを作ることが求められるという。これについて、継続的な制度を組み立て、その制度に市民が当然に参加することの問題があるであろうが、それについては展開されなかった。もとより、多くの市長たちが任期中市民から委任されていると考える発想から比べれば大いに進んだ姿勢であろう。

ユー氏は“今日棄権が重要問題になり、このことが民主主義を遠ざけることになり、”“大衆操作的（ポピュリズム的）なデマゴギーを跋扈させることになる”と言うのである。これに対して、ユー氏は“直接民主主義”を定着させることが課題だといっているが、展開はされなかった。

ユー氏は“今日、議員は大きな役割を負い、民主主義の担い手であるべき”だと言う。これを進めるためには、議員たちが“報酬を多く受け、彼らの地位が見直されるべき”だと言うのである。この際、ユー氏は、政党の方針と地域の発想との区別を言おうとしているようであるが、詳細は不明である。氏は、自分が率いてきた共産党よりも自分の故郷を選んでいるのであろうか。

基本的な政府（行政）の諸構造について、ユー氏は“現在の制度を維持すべきとし、コルシカ法については、問題を残したとしているが、展開はされなかった。間コミュン共同体はコミュンを超越す

る機関になる危険を持っている見ている。ユー氏にとって、コミュニティと国家が本質的な組織だということである。

ユー氏は、“自由主義は人間的価値を阻害し、市民意識の後退を招き、すべてが商業主義の対象となってしまう”ことへの危機感を表している。“自由主義は政治の義務の回避であり、”政治が“その気品と存在価値を取り戻さなければならない”というのが、ユー氏の主張である。